

A close-up photograph of a tiger's face, showing its orange fur with black stripes, white underbelly, and intense greenish-yellow eyes. The tiger is looking slightly downwards and to the left.

熊本市 動植物園 *Master PLAN*

For the 100th anniversary



目 次

1. 熊本市動植物園マスタープラン策定の背景について	P.1～4
2. 熊本市動植物園マスタープラン策定の目的について	P.5
3. 熊本市動植物園マスタープラン計画期間について	P.5
4. コンセプトについて	P.6
5. 驚きと新たな発見！いきものミュージアム	P.7～31
6. 江津湖との調和。水辺動植物園を再び	P.32～34
7. やさしさと魅力あふれる動植物園づくり	P.35～44
8. 持続可能な動植物園の構築	P.45～56
9. アクションプランの全体スケジュール	P.57
10. 熊本市動植物園マスタープランの進捗管理・見直しについて	P.58
11. 来園者アンケート調査について	P.59～79

1. 熊本市動植物園マスタープラン策定の背景について

(1) 熊本市動植物園の沿革について

熊本市動植物園（以下、「動植物園」という。）は、1929 年(S4)に延長敷設された熊本市電第二期線の増収を図り、新しい名所作りを目的として、水前寺にある成趣園東側に同年 7 月 26 日に「熊本動物園」として開園しました。その後、施設の老朽化や、周囲が住宅地として発展し拡張が不可能となったことから、1969 年(S44)7 月 1 日に現在地である江津湖畔へ移転し、「熊本動物園（水辺動物園）」として開園しました。さらに、1991 年(H3)4 月 1 日には、動物園との隣接地に整備した都市緑化植物園と一体化し、現在の「動植物園」が誕生し、市民の憩いの場として多くの人々に親しまれています。

自然環境の荒廃が深刻化している今日、動植物園では、楽しみながら学び、生命の尊さ、自然環境の大切さを理解できる環境教育の場として、また、野生動植物の保護や種の保存の場としての役割が社会的に注目されていることから、環境教育や生涯教育の拠点として幅広く活用できるように整備を進めています。

まず、2005 年(H17)4 月には、動物とふれあいなどを学ぶ場とした、全国でもユニークな施設となる、動物ふれあい広場「タッチ愛ランド」を開設しました。

さらに、2007 年度(H19°)からは、隣接する江津湖の水辺環境の特性を活かし、生態展示を主眼とした、5 期 15 年の再編整備が始まりました。これまで、2008 年(H20)から 2013 年(H25)にかけて、「モンキーアイランド」、「サルたちの森」、「チンパンジー愛ランド」、「ペンギン・カピバラエリア」や「ニホンザルエリア」がリニューアルオープンしました。

2016 年(H28)4 月 14 日と 16 日に最大震度 7 を記録した「平成 28 年熊本地震」が発生。当園は、広範囲にわたり、大きな被害を受け、地震発生直後より臨時休園を余儀なくされましたが、2017 年(H29)2 月 25 日からは部分開園を行いながら復旧に取り組み、2018 年(H30)●月●日には、全面開園することができました。

(2) 動植物園再編整備計画について

2001 年(H13) 3 月に熊本市動植物園再編整備検討委員会において、動植物園が目指す将来像として、「生命の鼓動に感動し、豊かな感性を育む動植物園」を掲げました。

この将来像を目指すため、2001 年度(H13°)に「熊本市動植物園再編整備基本調査」を実施し、3つの基本目標

1. 動物園+植物園から、“生態園” へ
2. 地域の自然を考える “環境学習センター” へ
3. 江津湖の環境を最大限生かした豊かな “水辺公園” を定めました。

次に、3つの基本目標を踏まえ、2005 年(H17)3 月に、「熊本市動植物園再編整備計画」を策定し、下記の 5 期 15 年、総工費約 22 億円の整備を実施することとなりました。

第 1 期 モンキーアイランド、サルたちの森 (2007～2008 年 3.2 億円)

第 2 期 チンパンジー愛ランド (2008～2010 年 4.2 億円)

第 3 期 ペンギン、カピバラ、サル山エリア (2008～2013 年 3.5 億円)

第 4 期 サバンナ水辺エリア (2012～2019 年 9.9 億円)

第 5 期 江津湖の自然エリア (2019～2021 年 1.5 億円)

これまで、第 3 期までの整備が完了し、2007 年度(H19°)に約 57 万人まで減少していた入園者数が、2008 年度(H20°)以降増加に転じ、2015 年度(H27°)においては約 75 万人に達するなど、一定の効果がありました。

第 4 期の計画では、カバが生息する広大なサバンナ水辺エリアを整備する予定でしたが、約 10 億円と多額の整備費用を要することや、整備前に給排水問題の解決に取り組む必要があったことなど、実現に向け課題が多かったことから休止し、2016 年度(H28°)より、「熊本市動植物園再編整備計画」を大幅に見直し、新たな再編整備計画を策定することとしていました。

しかしながら、熊本地震によりその見直しも先送りとなり、まずは早期全面開園に向けた災害復旧工事に全力を傾注することになりました。



(3) 熊本地震による被害について

2016 年(H28)4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震では、地盤の液状化や隆起・沈降などが発生し、動植物園に甚大な被害をもたらしました。

給水管や排水管が破損し、動物園施設のほぼ全域が断水しました。動物舎にも多数被害が出ており、中でも猛獣舎の檻には隙間ができたため、そこで飼育していた猛獣の 4 種 5 頭を、九州管内 4 カ所の動物園に避難させました。その他にも遊戯施設のスーパーバイキングの損傷、子ども列車の駅舎や友誼亭の倒壊などがあり、地震による動植物園の被害総額は、約 8 億 8 千万円にものぼりました。

前震の翌日、2016 年(H28)4 月 15 日から臨時休園となりましたが、比較的被害の少なかった植物園や動物ふれあい広場などを早期復旧し、2017 年(H29)年 2 月 25 日から土日祝のみの部分開園として再開することができました。また、2017 年(H29)6 月 3 日からは西門を開門し、西門前広場と草食獣舎の観覧エリア拡大を図り、さらには、2018 年(H30)1 月 6 日からはペンギン、ホッキョクグマ、シマウマや花の休憩所などの観覧エリア拡大を行いました。

また、臨時休園期間中、被災した子どもたちへの心のケアの一助になればとの思いで、市内の保育園、幼稚園、小学校を対象に、ヤギ、ヒツジ、ウサギやモルモットとのふれあいを行う「ふれあい移動動物園」を 35 ヶ所で実施しました。

動植物園は、早期全面開園を最優先に、国の補助金を最大限に活用しながら、復旧に取り組みしました。



(4) 動植物園施設の老朽化について

動植物園は、現在地に移転した 1969 年(S44)から順次施設の整備を行い、現在では、約 24.5ha の敷地に 84 棟の建築物があり、その延べ床面積が約 1.4ha となっています。建築物については、1969 年(S44)開園当初に建てられたものも存在し、一番古いものは築 48 年に達しています。これに加え、遊戯施設が 11 施設あり、建築物に付随する機械・電気設備を有することから、今後多額の更新費用が見込まれます。

今後 10 年間の見込としては、約 14.8 億円の更新経費が見込まれることとなるため、施設の長寿命化を図り、多額の更新経費を圧縮する必要があります。

(5) 動植物園の収支状況について

動植物園は、「熊本市動植物園再編整備計画」に基づく整備を、2007 年度(H19°)から始め、その効果として、2015 年度(H27°)は、約 75 万人と入園者数を伸ばしてきました。一方で、2015 年度(H27°)の決算状況を見ると、入園料収入等の歳入合計額が約 3.4 億円、維持管理経費や人件費等の歳出合計額が、約 10.8 億円となり、約 7.4 億円の赤字となっています。

これは、動植物園の役割が、観光施設としての側面から受益者負担を求める一方で、動物及び植物に対する知識と愛護意識を深めるための学習拠点としての役割や、市民に憩いの場を提供する場としての役割を担っているため、1997 年(H9)10 月以降入園料を据置きしています。

しかしながら、現状では、利用者 1 人あたりの支出が約 1,440 円に対し、収入が約 453 円と支出に対して収入が約 31%しかない状況であり、持続可能な動植物園を目指すには厳しい状況と言えます。

2. 熊本市動植物園マスタープラン策定の目的について

動植物園は、1929 年(S4)に前身である「熊本動物園」として開園以来、市民の憩いの場として、また環境教育や生涯教育（情操教育）の場として、今日では市内はもとより県外からも多くの人々が訪れる動植物園として愛され親しまれています。

動植物園は、現在の江津湖畔に移転して 50 年を迎えようとしていますが、貴重な自然環境を残す江津湖に隣接し恵まれた環境条件を備えているもののそれが十分に活かされておらず、また施設の老朽化とともに、利用者の多様なニーズに的確に対応できていない状況にあります。

また、この間幾多の再編を繰り返してきましたが、その整備が部分的にしか行われてこなかったことで展示に関して全体的なテーマ性に欠けることや、隣接する植物園施設をそのまま一体化したことで園内の配置が動物園と植物園とに分離された状態になっていること、さらには厳しい収支状況など今後早急に改善すべき様々な課題を抱えています。

今後集客性の向上や施設の活性化を図り持続可能な動植物園を構築するためには、園全体の再編整備を行い、園独自の新たな魅力を創出していくことも必要であると考えます。

当園は、2029 年に開園 100 周年を迎えます。

そこで、その節目を迎えるに当たり、その後の将来をも見据えた上で、利用者のニーズに合致した動植物園となるための「動植物園のあるべき姿（コンセプト）」を示し、その実現に向け計画的に取り組むを行うための「熊本市動植物園マスタープラン」を策定することとしました。

この「熊本市動植物園マスタープラン」を実現することにより、江津湖畔の自然環境と調和のとれた快適で魅力的な動植物園、「選ばれる。好きになる。そして、愛される熊本市動植物園」を目指します。

3. 熊本市動植物園マスタープランの計画期間について

2019 年度(H31°)から 2028 年度までの 10 年間で予定しています。

※「5-(2)-①-(ア)【将来を見据えたエリア計画】」についてのみ、長期的（20～30 年後）な視点が必要となることから、本計画期間の対象外とします。

4. 熊本市動植物園マスタープランのコンセプトについて

コンセプト「選ばれる。好きになる。そして、愛される熊本市動植物園へ」

熊本地震により約 10 か月間臨時休園となりましたが、その間も、皆様からの応援やご支援をいただきながら、2017 年(H29)2 月に部分開園を行い、2018 年(H30)●月には全面開園することができました。これまで応援をいただいた皆様のご期待に沿えるように、また今後より多くの皆様から愛され続ける動植物園を目指すために、「選ばれる。好きになる。そして、愛される熊本市動植物園へ」をコンセプトに掲げ、このコンセプトを達成するために、次に掲げる 4 つのテーマの実現に向けて取り組みます。

テーマ1. 驚きと新たな発見！いきものミュージアム

動物は約 120 種 700 頭。植物は約 730 種 88,000 点を展示しています。

これらの展示物を見るだけでなく、命の大切さや生き物の尊さを伝えていくことが重要と考えています。

テーマ2. 江津湖との調和。水辺動植物園を再び

江津湖畔にある「動植物園」。江津湖畔というロケーションを活かした動植物園を目指します。

テーマ3. 優しさと魅力あふれる動植物園づくり

来園者に優しく、魅力ある空間を提供することで、選ばれる動植物園につなげていきます。

テーマ4. 持続可能な動植物園の構築

施設の老朽化や収支状況の改善など、経営的な面についても課題を抱えています。この課題を少しでも改善し、持続可能な動植物園を構築します。



5. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」～動物と植物の魅力を伝える～

(1) 「いきものミュージアム」とは何か。

動植物園は、市民の憩いの場や観光施設としての役割を担う一方、「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」という役割も担っています。

現在当園では、約 120 種 700 頭の動物と約 730 種 88,000 点の植物を展示しており、これらの多様な動植物を通して、本や映像からでは得ることのできない生き物の迫力や美しさを体感できる施設となっています。

今後、動植物本来の生息域を感じられる展示に取り組み、私たちに身近な熊本や日本国内の自然をはじめとして世界各地の自然環境や生態系、動植物と人との関わりについて学ぶことのできる場を提供することで、動植物の魅力を伝えていきます。

また、種の保存や調査・研究に関する活動を、今まで以上に推進するとともに、その情報を広く発信し、動植物や自然環境について知識を深めてもらう、学習の拠点「いきものミュージアム」を目指すために、3つのアクションプランを掲げて取り組んでいくこととします。

※「熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもと Cプラン～」
との関わりについて

熊本市は、2016 年(H28) に生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた基本的かつ総合的な計画として「熊本市生物多様性戦略 ～いきもん つながる くまもと Cプラン～」を策定しました。その計画の中においても、動植物園の役割として、生物多様性に関する情報の収集・発信、生物や自然環境に関する学習機会の提供、希少生物の生息域外での保全の実施が挙げられており、同計画とも連携し取り組みを進めます。

【将来を見据えたエリア計画の解説】

① ふるさとの自然

展示テーマ：

- ・ 熊本県及び国内の動植物を通じ、身近な自然の大切さと生物多様性を学ぶことができる展示を行う

主な施設

コンゴウインコ舎
ニホンキジ舎
ツル舎
猛禽舎
ニホンザル舎
日本庭園

主な動植物

ホンドギツネ、ニホンアナグマ、ニホンキジ、フクロウ、オシドリ、ツクシガモ、タンチョウ、
ホンドタヌキ、ニホンリス、マナヅル（新規導入予定）
ゲンジボタル、カワナナ、淡水魚、エビ類
スイゼンジノリ、ヒラモ、紅葉木、アジサイ、

展示計画

実施目標

【3年以内】

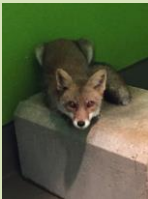
- ・ 現コンゴウインコ舎、ツル舎、猛禽舎等を活用するとともに、日本庭園の森の中にも小動物の展示ケースなどを設置し、熊本県及び国内に生息する動物の展示を行う
- ・ ニホンザル・ニホンジカの展示を通して、人と動物の関りを学べるようにする
- ・ 日本庭園小川でのゲンジボタルの飼育を行う
- ・ 江津湖に棲む淡水魚、カワナナ、エビ類、ヒラモの自然繁殖など小川の環境を整える
- ・ スイゼンジノリの保護増殖を行う

【5年以内】

- ・ 日本庭園の間伐を行うとともに、四季を感じられる風景を作り出す
- ・ 季節を感じる展示としてアジサイの小径を作る

【10年以内】

- ・ 日本の原風景である棚田をつくり、田植え・稲刈りなどの体験を行えるようにする
- ・ 肥後六花など熊本にゆかりのある植物の植樹を検討する

ホンドギツネ		分布／日本（本州、九州、四国、 熊本 ）
ニホンアナグマ		分布／日本（本州、四国、九州、小豆島、 熊本 ）
ニホンキジ		分布／日本（ 熊本 ）

フクロウ		分布／日本（熊本）
オシドリ		分布／日本、東南アジア、サハリン、中国
ツクシガモ		分布／日本に冬鳥として飛来
タンチョウ		分布／北海道東部、中国東北部、シベリア東南部
ホンドタヌキ (導入予定)		分布/日本（本州、四国、九州、熊本）
ニホンリス (導入予定)		分布/日本（本州、四国、九州）
マナヅル (導入予定)		分布/中国北部とモンゴルで繁殖し、中国東部や朝鮮半島、日本に渡って越冬します。
猛禽類 (ニホンイヌワシ導入検討)		分布/日本（北海道、本州）
ゲンジホタル		分布/日本（本州、四国、九州、熊本）

カワニナ		分布/東アジア、日本
スイゼンジノリ		1872（明治5年）に、オランダの植物学者・スリンガーが、水前寺・江津湖において発見し、新属新種のラン藻として世界に紹介した淡水性ラン藻の一種。発生地のひとつである上江津湖の一部は、国の天然記念物に指定。絶滅危惧Ⅰ類。
ヒラモ		熊本県のみに自生する固有種。江津湖周辺などに分布し、柔軟な茎葉をもち長さ20～80cmになる。絶滅危惧Ⅱ類。
紅葉木 (イロハモミジ)		分布/日本（関東以西） 本州の関東以西に分布します。庭園樹、盆栽、材は建築材、器具材に利用されます。潮風、大気汚染に弱いです。
アジサイ		分布/日本 日本で生まれた園芸品種です。観賞用として広く栽培されています。花は6～8月開花し、土壌が酸性が強いと藍紫色、アルカリ性が強いと赤みを増加します。

②アジアの多様性

展示テーマ：

- ・ アジア地域の動物の地上から樹上など生活の多様性を展示する
- ・ ネコ科動物の生態や習性の多様性を比較展示する
- ・ 草原、水辺、密林、高地などアジア地域の多様な環境を学ぶことができる展示を行う

主な施設

クマ舎
猛獣舎
サルたちの森
キンシコウ舎
小獣舎
シマウマ舎

主な動植物

キンシコウ、シシオザル、シ
フゾウ、マレーグマ、
アムールトラ、ユキヒョウ、
ウンピョウ、
マレーバク（新規導入予定）

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ シフゾウを現シマウマ舎に展示しシフゾウ舎とする
- ・ 猛獣舎はリニューアル後、ネコ科動物を比較展示する。
- ・ キンシコウの繁殖に向けた共同研究を検討する

【5年以内】

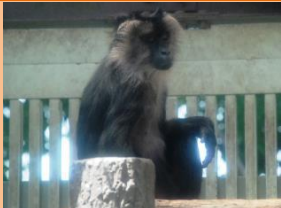
- ・ サルたちの森は、霊長類以外の種の展示も行い、施設名称を変更する

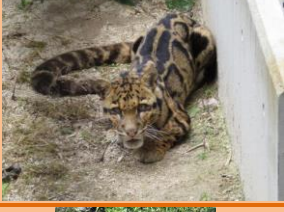
【10年以内】

- ・ ライオンはアフリカエリアへの移動を行う

【10年以降】

- ・ クマ舎は開園当初の施設のため、将来整備を行うが、現行のクマの比較展示ではなく、マレーグマ、マレーバクの繁殖を可能とする施設に整備を行う

キンシコウ		分布/中国
シシオザル		分布/インド
シフゾウ		分布/野生絶滅
マレーグマ		分布/中国南部から東南アジアにかけての熱帯・亜熱帯地域の森林

アムールトラ		分布/ロシア・中国の東部地域（アムール川・ウスリー川流域）
ユキヒョウ		分布/中央アジアの山岳地帯
ウンピョウ		分布/インド北東部から東南アジア
マレーバク （導入検討）		分布/ミャンマー、マレー半島、スマトラ島などの森林地帯

③南米の海からアマゾンへ

展示テーマ：

- ・ 海岸に生息するフンボルトペンギン、水辺に生息するカピバラ、樹上生活のクロクモザルなど環境に適応した動物の特性を学ぶことができる展示を行う

主な施設

モンキーアイランド
ペンギン舎
カピバラ舎
アメリカオシ舎
アライグマ舎

主な動植物

クロクモザル、ボリビアリスザル、フンボルトペンギン、カピバラ、コンゴウインコ、ベニイロフラミンゴ、チリーフラミンゴ

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ モンキーアイランドで、クロクモザルとボリビアリスザルの展示を行う
- ・ モンキーアイランドのリスザル側水モートで、南米産のフラミンゴ展示を検討
- ・ アメリカオシ舎、アライグマ舎は改修を行い、フラミンゴ展示を行う
- ・ カピバラ舎はカピバラと混合展示できる動物を検討（コンゴウインコ、など）

クロクモザル



分布/アマゾン川流域

ボリビアリスザル		分布/ボリビアやブラジル、ペルーなど
フンボルトペンギン		分布/南アメリカ大陸南部の太平洋
カピバラ		分布/南アメリカ
アカコンゴウインコ ルリコンゴウインコ ベニコンゴウインコ		分布/メキシコから南米の熱帯森林やサバンナ
ベニイロフラミンゴ		分布/西インド諸島、南アメリカ北部海岸
チリーフラミンゴ		分布/アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ブラジル南部、ペルー南部、ボリビア

④アフリカの雄大な大地

展示テーマ：

- ・ 雄大なサバンナを連想させる広い展示場でキリンやシマウマなどの動物の混合展示を行う
- ・ 森（チンパンジー）、水辺（カバ）、サバンナ（混合展示）などのアフリカの多様な環境を学べる展示を行う
- ・ サバンナの雄大な大地の先に江津湖が望めるロケーションをつくる

主な施設

チンパンジー舎
草食獣舎
キリン舎
ゾウ舎
ライオン舎（新設）
マンドリル舎（新設）
ヤマアラシ舎（新設）
サバンナ混合展示（新設）

主な動植物

チンパンジー、ホオジロカンムリツル、クロサイ、カバ、シマウマ、エランド、ダチョウ、ホロホロチョウ、マンドリル、マサイキリン、アフリカゾウ、モモイロペリカン、ワオキツネザル、エリマキキツネザル、ライオン（移動予定）、ヤマアラシ（新規導入予定）

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ チンパンジーは現行施設で繁殖を目指す。
- ・ 隣接のフラミンゴは南米エリアに移動し、ホオジロカンムリツルを展示する
- ・ シマウマを現草食獣エリアに移動する
- ・ かも池の島でのワオキツネザル、エリマキツネザルの飼育を検討する

【5年以内】

- ・ ラマ・シロダマジカは他園等への搬出を行う予定

【10年以内】

- ・ 老朽化が著しい草食獣舎は建て替えを行う。サバンナエリアは柵をできるだけ少なくし開放的な展示場でキリンやシマウマなどの混合展示を行う。また、サバンナに続く低木地エリアなどを計画する。
- ・ 草食獣舎整備に伴い、かも池の利用を検討する。
- ・ 草食獣舎整備の際には、サバンナの混合展示を通して江津湖の眺望を確保するため、現在のパプアニューギニア館・は虫類舎は撤去を行う。パプアニューギニア館の鳥類は亜熱帯の森へ移動。ムツアシガメはアジアの多様性エリアへ移動。残りの種に関しては他園等へ搬出を行う

【10年以降】

- ・ 現行サイ舎、カバ舎は老朽化しているため、将来整備を行うが、アフリカエリアに近い場所を検討する
- ・ カバ舎の整備の際は、現行オタリア舎のプールを有効活用し、さる池の利用も検討する。オタリアは将来個体の確保が困難なため、現行個体が亡くなった段階で飼育終了とする

チンパンジー		分布／アフリカ大陸赤道付近の熱帯雨林
ホオジロカンムリヅル		分布／アフリカ南部
クロサイ		分布／アフリカ大陸の南側のサバンナ
カバ		分布／アフリカ大陸
シマウマ		分布／アフリカ大陸のサバンナ
エランド		分布／アフリカ大陸のサバンナ
ダチョウ		分布／アフリカ大陸のサバンナ
ホロホロチョウ		分布／アフリカ大陸の開けた草原
マンドリル		分布／アフリカ西部

マサイキリン		分布／アフリカのサバンナ
アフリカゾウ		分布／サハラ砂漠以南のアフリカ
モモイロペリカン		分布／アフリカ北部、ヨーロッパ東南部、東南アジア
ワオキツネザル		分布／マダガスカル
エリマキキツネザル		分布／マダガスカル
ライオン		分布／アフリカ大陸
アフリカタテガミヤマアラシ		分布／アフリカ北部から中部にかけての岩場や森，草原

⑤ゾウの水辺

展示テーマ

- ・ 絶滅の恐れのある希少動物の象徴でもあるゾウの飼育展示を将来継続的に可能とする施設をつくり、種の保存の重要性を伝える

主な施設

ゾウ舎

主な動植物

アフリカゾウ

展示計画

実施目標

【10年以降】

- ・ ゾウ飼育に関しては、現在飼育している個体が亡くなった後もゾウ導入が可能となる放飼場を整備する

アフリカゾウ



分布／サハラ砂漠以南のアフリカ

⑥おじゃましパーク

展示テーマ

- ・ 来園者自らが、動物の飼育されているエリアに入り、より近くで動物を見ることができる展示を行う

主な施設

カンガルー舎（新設予定）

主な動植物

カンガルー

展示計画

実施目標

【10年以降】

- ・ カンガルー舎は、老朽化しているため、今後整備を行う
- ・ 広々とした施設で、動物の放飼場に来園者が入っていける施設へ整備を行う
- ・ カンガルー以外の適性がある動物についても、検討を行う

カンガルー
(写真はアカカンガルー)



分布／オーストラリア

⑦氷上の人気者！

展示テーマ

- ・ 絶滅危惧種であるホッキョクグマの国内繁殖の取り組みを知り、環境保全の重要性を伝える

主な施設

ホッキョクグマ舎

主な動植物

ホッキョクグマ

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ 国内でのホッキョクグマの繁殖計画に従い、余剰個体の受入を行う
- ・ 将来の動向により現行ホッキョクグマ舎を有効に活用していく

ホッキョクグマ



分布／北極圏

⑧動物ふれあい広場

展示テーマ

- ・ 動物とのふれあいを通して命の尊さを学べるエリアとする
- ・ 人と関わりの深い家畜や愛玩動物を展示し、人との関係や歴史について学ぶことのできる場を提供する
- ・ 子どもから大人まで、楽しむことのできる体験型プログラムを充実させる

主な施設

ふれあい広場

セキシヨクヤケイ舎

肥後五鶏舎

プレーリードッグ舎

主な動植物

ヤギ、ヒツジ、ポニー、ウサギ、モルモット、セキシヨクヤケイ、プレーリードッグ、肥後五鶏、あか牛(褐毛和種)(新規導入予定)

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ ふれあい広場でふれあいに供する動物の選定、動物ごとのプログラムを再構築する
- ・ 各年齢層に応じた体験型プログラムを検討、実施する

【10年以内】

- ・ あか牛の導入を検討し、阿蘇の自然や熊本市との関りなどを学べるようにする

【10年以上】

- ・ エリア拡充を検討する

ヤギ (写真・説明はシバヤギ)		家畜種（世界各地で飼育）
ヒツジ		家畜種（世界各地で飼育）
ポニー		家畜種（世界各地で飼育）
ウサギ		家畜種（世界各地で飼育）
モルモット		家畜種（世界各地で飼育）
セキショクヤケイ		分布/中国南部からフィリピン、マレーシア、タイなど東南アジア
プレーリードッグ		分布/北アメリカ大陸の草原
肥後チャボ		分布/熊本
久連子鶏		分布/熊本

地すり		分布/熊本
熊本種		分布/熊本
天草大王		分布/熊本

⑨ 亜熱帯の森

展示テーマ

- ・ 花の休憩所温室を利用し、亜熱帯に生息する動物と植物を一体的に展示する

主な施設

花の休憩所（温室）

主な動植物

オウギバト等のハト類、
オウム・インコ類
リクガメ等のは虫類など
亜熱帯植物

展示計画

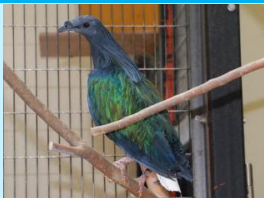
実施目標

【3 年以内】

- ・ 温室内での動物飼育方法の検討
- ・ 動物と植物とを一体的に展示する方法の検討
- ・ 一部の動物を温室へ移動し、飼育・展示を開始

【5 年以内】

- ・ 現パプアニューギニア館で飼育している鳥類、または両生・爬虫類の飼育を温室内で行い、植物との一体化を図る

オウギバト		分布/インドネシア、パプアニューギニア
ムネアカカナムリバト		分布/パプアニューギニア
キンミノバト		分布/東南アジアのインドネシアやニューギニア、ミャンマー沖にあるニコバル諸島、ソロモン諸島

モモイロインコ		分布／オーストラリア、タスマニア
キバタン		分布／オーストラリア、パプアニューギニア

⑩水辺のいきもの探し

展示テーマ

- ・ 日本庭園下流域に江津湖に棲む水生生物を観察できる場所をつくる
- ・ 動物資料館で繁殖した水生生物の放流や流域植物の整備により、自然に繁殖ができる水辺環境をつくる

主な施設

日本庭園下流域

主な動植物

タカハヤ、モツゴなどの江津湖の魚類、カワニナ、エビ類
ヒラモ、水辺の植物など

展示計画

実施目標

【3年以内】

- ・ 日本庭園下流域に生息する動植物調査
- ・ 日本庭園下流域を水生生物の棲みやすい環境へ整備する
- ・ 動物資料館で繁殖した水生生物の放流

タカハヤ		分布/富山県-静岡県以西の本州・四国・九州・五島列島・対馬
モツゴ		分布/関東地方以西の本州・四国・九州、東アジア
カワニナ		分布/東アジア、日本
ヒラモ		熊本県のみで自生する固有種。江津湖周辺などに分布し、柔軟な茎葉をもち長さ20～80cmになる。絶滅危惧Ⅱ類。

⑪ サクラの回廊

展示テーマ

- ・ 植物ゾーンの花畑横から水辺にかけて桜を充実させる

主な施設

花畑から水辺にかけての
エリア

主な動植物

オオシマザクラ、ソメイヨ
シノ、チハラザクラ、
ヤマザクラ等

展示計画

実施目標

【5 年以内】

- ・ 日本庭園下流域に様々な品種のサクラを植樹する

オオシマザクラ		分布／伊豆七島、伊豆半島、房総半島 伊豆七島、伊豆半島、房総半島に分布。伊豆七島のみが自生で、他は野生化し、たものといわれています。3～4月に白色の花を咲かせます。
ソメイヨシノ		分布／日本全土 日本に広く植栽されています。オオシマザクラとエドヒガンの間に生まれた雑種です。3～4月葉に先立って淡紅白色の花を咲かせます。
チハラザクラ		分布／熊本市千原台 熊本市島崎の千原台に原木がありましたが枯死してしまいました。現在は、保存会によって繁殖がはかられています。4月中旬に開花します。
ヤマザクラ		分布／日本（宮城県、新潟県以南、四国、九州） 宮城、新潟県以南、四国、九州に分布。暖帯、温帯の丘陵から低山地に広くはえ、植栽もされます。4月、新葉とともに淡紅白色の花が咲きます。

⑫多様な四季の樹木

展示テーマ

- ・ 四季を通じて樹木の変化が楽しめる展示を行う
- ・ 芝生や緑陰など植物の中でやすらぎを与える風景を作り出す

主な施設

春夏花木園、秋冬花木園、
バラ園、梅園、低木花木園

主な動植物

ウメ、バラ、モクレン、ハ
ナミズキ、どんぐり類など

展示計画

実施目標

【5年以内】

- ・ 被圧木（周辺の樹木に成長を阻害され樹勢が弱い樹木）等の整理を行う

ウメ		分布／中国（原産）、東北地方～九州全域 中国原産。日本には古代渡来したと思われます。東北地方から九州全域に植栽されています。庭園、盆栽に利用するほか、果実を塩漬（梅干し）して食べます。
バラ		分布／北半球の温帯域 バラ科バラ属の総称で園芸種を総称する。古くから多くの品種改良がおこなわれており3万種以上の品種があるといわれる。樹形は、木立ち性や半つる性、つる性があり、開花性質は、一季咲き性や四季咲き性などがある。
モクレン		分布／中国中部（原産）、日本（北海道南部～沖縄） 中国中部原産。北海道南部～沖縄に分布。公園、学校、花木、記念樹などとして植栽されています。
ハナミズキ		分布／北米、メキシコ（原産）、日本全土 北米、メキシコ原産。日本に広く分布します。園樹等に利用され花、実、紅葉がきれいです。4～5月頃白の4弁の花が上向きに咲きます。
どんぐり		分布／日本（本州、四国、九州） 本州、四国、九州に分布。山林に自生し、また植林されます。材は、器具・薪炭・染料などに利用されます。

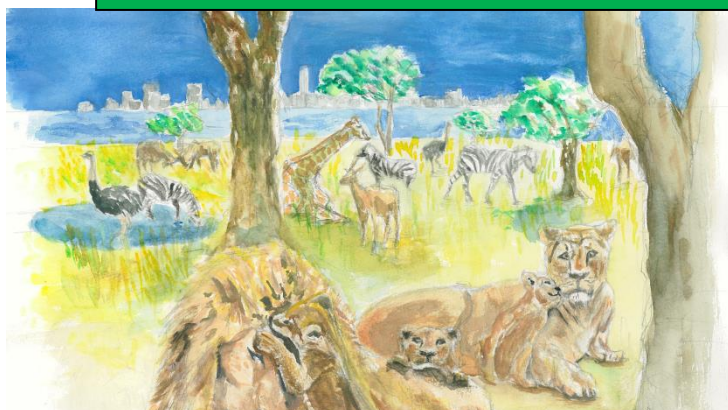
(1) 動植物園開園 100 周年に向けた整備計画

展示施設の整備につきましては、前述のとおり現在の施設や園路を有効に活用することを基本としますが、「アフリカの雄大な大地」エリアの一部となる現在の草食獣舎（シフゾウ舎～ニホンジカ舎）エリアにつきましては、大規模改修を行います。これらの施設は、開園当初に建築された木造舎などがあり、園内の施設の中でも、一番老朽化した動物舎です。開園当初は動物を展示すること自体が目的であったため、それぞれ多様な生息地の動物であっても柵で囲われた同様の造りとなっています。

そこで、本整備では本来の生息環境に出来るだけ近づけるため広大なサバンナと低木林を再現し、動物の福祉に配慮した施設を整備します。そしてサバンナの草原にいる動物の先に江津湖が望める景観を創出します。

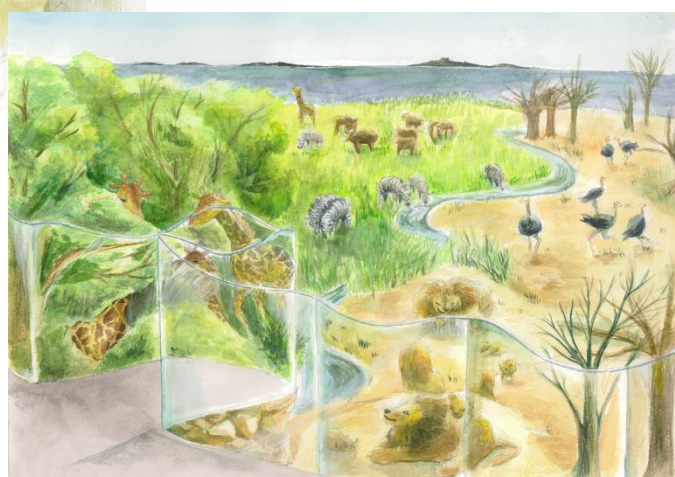
エリアイメージの解説・イメージ図

- ・ 現シフゾウ舎からラマ舎付近をアフリカの低木地エリアとしてマンドリル、ヤマアラシ等を展示
- ・ 低木地エリアを抜けた場所に、サバンナエリアとしてライオン、キリン、シマウマ、エランド等の混合展示エリア、その先の江津湖を一望できるビューポイントを作り広大なサバンナ風景を見せる
- ・ パプアニューギニア館及びは虫類館は江津湖との一体的な眺望を確保するため撤去を行う



（イメージ図上）熊本県立第二高等学校 美術科
1年 原 大知さん作

（イメージ図下）熊本県立第二高等学校 美術科
1年 河津 若菜さん作



（図2）整備エリアイメージ図

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5-(2)-①-(イ) 開園100年に向けた 整備計画	検討				基本計画	基本設計
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	詳細設計	工事				

(ウ) 展示方法の改善

展示方法の改善に関しては、国、自治体、博物館、大学等との連携を通して教育・種の保存・調査研究につながる展示を行います。

a. 体験型、近くで観察できる展示を目指します

- ・ 柵を少なくした展示を行い、生息地の環境を感じ、動物を近くで観察できる展示を行います。
- ・ 動物を飼育している放飼場に人が入る展示形式を検討し、より近くで動物を観察できる展示を行います。
- ・ 直接触る・体験することができるハンズオン展示（骨格、羽などの副産物や教材等を触れる展示、めくり式看板で体のつくりを知る、体重や大きさの比較など）を行い、食性の違い、生活形態の違い、体のつくりの違いなどを実感できる展示を行います。
- ・ 動物に関する知識を深め、さらに動物に興味を持ってもらうために、動物に触れる、においや鳴き声などより近くで実感できる、エサを与え食べるところを観察するなどの体験が可能な展示を行います。



(写真) 実際に触って動物の特徴を実感できる展示サイン（ハンズオン展示）

b. 動植物を一体化した展示に取り組み、生息域を感じる展示を目指します

- ・動物舎では可能な限り生息環境に近づけるために植樹を行い、植樹が困難な獣舎には木や枝などを設置します。
- ・生息域を感じる展示では、それぞれの動物が暮らす環境を再現することに加え、人やその生活文化と動植物との関わりについても、学べるものにします。
- ・ふるさとの自然エリアに関しては、熊本や日本国内で見ることが出来る動植物を展示し、ふるさとの原風景を実感できるような展示を行います。



(写真) 放飼場への植樹（左）と自然木で遊ぶチンパンジー（右）



(写真) ニホンザル舎における球磨郡相良村の奥山と里山をイメージした展示施設

c. 動物の福祉に配慮した展示に取り組みます

- ・動物の健康管理、疾病管理を適正に行います。
- ・群れを作る動物、単独で行動する動物など、動物種によって行動様式が様々なため、その動物種本来の行動様式を考慮した展示を行います。
- ・施設更新の際にはその動物の生息域を考慮した施設づくりを行います。
施設更新ができない場合でも、飼育動物の活動が単調にならないよう環境エンリッチメント（注 1）に取り組みます。

注 1）環境エンリッチメント

野生の動物は生息域を自由に動き回り、1 日のほとんどをエサの探索に当てる。一方、動物園の飼育動物は限られたスペースの中で生活せざるを得ないため単調な生活になりがちで、常同行動等につながりやすい。そこで、動物に対する生活の質の向上を目的に飼育環境にエサを入れたフィーダー（給餌装置）や遊具を入れたりして生活を豊かにすること



（写真）キリンの群れ展示



（写真）環境エンリッチメントの取り組み（チンパンジーがフィーダーや道具を使う様子）

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5－(2)－①－(ウ) 展示方法の 改善	計画策定		実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

② 種の保存・調査研究の推進

(ア) 種の保存

- ・国内外の状況を勘案して展示動植物種や点数の見直しを行い、動植物種のコレクションプランを策定します。
- ・コレクションプランに基づき、動植物の収集、繁殖・増殖に取り組みます。
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における「認定希少種保全動植物園等」（注2）制度における認定を目指し、定められた基準を満たすとともに、希少動植物種の保護増殖事業に積極的に取り組みます。

注2)「認定希少種保全動植物園等」

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の一部改正により、「認定希少種保全動植物園等」制度が創設されました。希少種の保護増殖という点で、一定の基準を満たす動植物園等を認定する制度であり、認定された動植物園等が行う希少野生動植物種の譲渡し等については、規制を適用しないこととします。

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5-(2)-②-(ア) コレクションプラン の策定	検討	策定	継続実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	継続実施					

(イ) 調査研究事業の推進について

- ・専門知識を持つ職員の育成を行い、動植物についての調査研究を推進し、学会発表・論文投稿などを積極的行います。
- ・国、自治体、博物館、大学等との連携を通して、自然科学分野の調査研究・展示を発展・充実させます。

【2016年度(H28) 調査研究事例の一部】

- ・飼育下ワオキツネザルへの採食エンリッチメント導入が行動に及ぼす効果
- ・アフリカゾウの発情回帰刺激に対する行動および血中ホルモン濃度の変化
- ・熊本地震による被害とその後のチンパンジーの行動変化

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5-(2)-②-(イ) 調査・研究事業の 推進	実施					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

③ 自然環境教育の推進

(7) 「いきもの学習センター」の設置

現在の動物資料館を、江津湖の希少動物の繁殖や生息域外保全の拠点とするとともに、子どもたちには楽しく分かりやすい学習の場を提供することを目的とし、「熊本市の自然環境教育の拠点」を目指した、「いきもの学習センター」へ見直すこととします。動植物に関することや江津湖を始めとする地域の自然について、楽しく学べる魅力ある施設づくりに取り組みます。

a. 調査・研究事業について

- ・ニホンバラタナゴのほかスイゼンジノリ、キタミソウ等の江津湖の希少動植物について、繁殖・増殖・調査研究を行います。

b. 展示改善

- ・江津湖を中心として、熊本県内に生息する動植物についての展示を充実させ、熊本の多様な自然環境について楽しく学んでもらうための取り組みを行います。
- ・動物資料館で所有している貴重な剥製や骨格標本の展示を充実し、すでに見ることが出来なくなった動物や生態による骨格の違いなどについて学ぶ「動植物園の中の博物館」としての展示に取り組みます。
- ・希少動物の繁殖・展示のための設備を充実させ、来園者にも観て楽しめる研究室として整備します。

c. 自然環境教育の拠点施設

- ・生物多様性に関する講習会、シンポジウム等を積極的に開催するとともに、生物多様性、環境保全に関する情報を収集して、情報拠点としての役割を果たします。
- ・市民協働の取り組みとして、生物多様性、環境保全に取り組む市民の情報発信の場としても活用します。

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5-(2)-③-(ア) いきもの学習 センターの整備	計画策定		運用(ソフト整備、現行施設活用)			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	設備設計	施設整備(常設展示)		施設整備(水槽等施設)		

(イ) 学習プログラムの整備

これまで、動物を通して命の大切さを感じるプログラム、ゾウ糞はがきづくり、羊の毛つむぎ教室、放飼場への植樹、フィーダーづくり、田植え・稲刈り体験、親子自然観察会など、様々な学習プログラム、環境エンリッチメントプログラムを実施してきました。これらの取り組み内容を体系的に見直すとともに、各年齢層に応じてさらなる魅力的なプログラムの開発・実施に取り組みます。また、教材、技術、人材などの開発に努め、計画、実施、評価を重ね、動植物園教育の充実を図ります。併せて学校教育との連携を行い、年間カリキュラムに沿った学習プログラムの開発を支援します。

- ・間近でエサを食べる様子の観察、その動物に特異的な行動を引き出すガイド、バックヤードの観察など、より動植物に興味を持つことが出来るよう、動物ガイドの内容、回数などの見直しを行います。
- ・環境エンリッチメントのための動物のエサや遊び道具の設置、生活環境改善のための植樹、飼育員体験など参加体験型のプログラムを充実させます。
- ・動物ふれあい広場では、ふれあいプログラムを再構築し、各年齢層に応じた体験型プログラムを実施します。
- ・ふるさとの自然エリアや水辺のいきもの探しエリアを活用し、身近な環境や生物多様性を学ぶことができるプログラムを実施します。
- ・植物講習会のプログラムを再構築し、ふるさとの自然を理解するため、園芸種・栽培種に関するものから野性の固有種や希少種に関するものまで学ぶことができるプログラムを実施します。



写真：動物のエサの食べ方の特徴を近くで観察するガイド
 写真：エサの調理・設置を行う体験プログラム（右上）と飼育員体験（右下）

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5－(2)－③－(イ) 学習プログラムの 整備	実施					→
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					→

6.「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」水辺空間の活用を目指します！

(1)「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」とは何か。

動植物園が、現在地の江津湖畔へ移転した経緯としては、熊本の特色を活かして江津湖畔に放し飼いの水獣類を主体にした「水辺動物園」を設ける案が斬新であったことが、移転候補地の中から決定された理由の一つとなっています。

動植物園では、江津湖畔を生かした取り組みとして、江津湖レンタサイクルや親子自然観察会「江津湖の生き物ウォッチング」をはじめとする各種観察会も実施しています。また、2004年(H16)に砦（とりで）遊具やデッキを設置し、江津湖が眺望できるような施設を導入しました。

今回実施した来園者アンケート（来園者アンケート結果は、P.59~79に掲載・P.71 参照）の結果を見ると、江津湖などの周囲の水辺空間の活用がこれからの動植物園に必要と回答された方が、170名（32.2%）と多かったことから、水辺動植物園をテーマの1つに加えて斬新なアイデアがある動植物園を目指すために、2つのアクションプランを掲げて取り組んでいくこととします。



(写真上：南門からの江津湖の眺望)



(写真右：下江津湖沿いの
サイクリングロードと湧水)

(2)「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」水辺空間の活用を目指すためのアクションプラン

①江津湖畔を活かしたカフェやレストランを中心とした複合施設の導入

来園者アンケート（P.71 参照）の中で、「飲食施設（レストランなど）の充実」が必要であると回答された方が、173 名（32.8%）と多く、飲食施設の充実も必要であると考えています。それと同時に、南側に面した敷地を有効活用し、園外からも利用できる施設にすることで、動植物園をより身近に感じていただくことができます。また、様々な魅力を備えた複合施設の導入により、それを目的に訪れる人々が、江津湖を感じ、そして動植物園に来園するきっかけとなり、新たな集客へつなげることもできます。

動植物園が考える様々な魅力とは、カフェやレストランを中心とし、子どもが遊び・学ぶことができるスペースや、大人がくつろげる、読書スペースやアートを備えた休憩スペースなどを併せ持つ複合施設の導入です。

これらの導入の可否を、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）の枠組みの中で検討し、民設民営のカフェやレストランを中心とした複合施設の導入を目指します。



(写真：例) 京都市動物園の図書館カフェ)

【京都市動物園ホームページより抜粋】

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
6-(2)-① 江津湖畔を活かしたカフェやレストランを中心とした複合施設の導入	調査	調達	工事	実施		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

②江津湖畔の立地を活かした動植物展示

動植物園では、園内から江津湖の眺望を重視した砦（とりで）遊具やデッキの導入などを行ってきました。しかしながら、動物の展示施設は、江津湖に背を向けて観覧する配置になっており、動物の展示と江津湖が一体化していないことが課題となっています。「水辺動物園」という原点に立ち返り、江津湖に隣接している立地を十分に活かした動植物の展示を目指します。

【動植物園開園 100 周年に向けた整備計画（再掲：5－(2)－①－(イ)・P.25 参照）】

- ・低木地エリアを抜けた場所に、サバンナエリアとしてライオン、キリン、シマウマ、エランド等の混合展示エリア、その先の江津湖を一望できるビューポイントを作り、広大なサバンナ風景を見せる。
- ・パプアニューギニア館及びは虫類館は、江津湖との一体的な眺望を確保するために撤去を行います。

【スケジュール（再掲）】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5－(2)－①－(イ) 開園100年に向けた 整備計画	検討				基本計画	基本設計
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	詳細設計	工事				

【いきもの学習センター設置（現：動物資料館）（再掲：5－(2)－③－(ア)・P.30 参照）】

江津湖の希少動物の繁殖や生息域外保全の拠点とするとともに、江津湖を始めとする地域の自然について楽しく学べる「いきもの学習センター」へ見直しを図ります。

【スケジュール（再掲）】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5－(2)－③－(ア) いきもの学習 センターの整備	計画策定		運用(ソフト整備、現行施設活用)			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	設備設計	施設整備(常設展示)		施設整備(水槽等施設)		

7. 「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」選ばれる動植物園を目指します！

(1) 「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」とは何か。

動植物園は、市民に憩いの場を提供する役割を担っていますが、建物や設備の老朽化により、全ての施設において快適で魅力ある空間とは言い難い状況となっています。

今回（2017年(H29)5月3日～5日に）実施した来園者アンケート（来園者アンケート結果は、P.59～79に掲載）では、園内の施設に対するさまざまなご意見・ご要望をいただきました。アンケート結果では、園路の段差解消、休憩スペースの整備、暑さ対策、案内表示板の設置、トイレの整備、遊戯施設の充実などのご要望を頂き、利用者の多様なニーズが伺える結果となりました。

当園は、九州では珍しく起伏が少ない動植物園です。今後はその立地を生かしながら、計画的に施設の改修に取り組むことで、家族連れはもちろん、高齢者や車椅子利用者等、誰もがストレス無く楽しめる快適な空間を目指すために、9つのアクションプランを掲げて取り組んでいくこととします。



(写真上) 鋼板が錆ついている屋外トイレ



(写真右) 凹凸のある園路

(2)「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」を目指すためのアクションプラン

①開園 100 周年へ向けての新しい顔・正面ゲートリニューアル

正面ゲートは、建設から 30 年以上が経ち施設の老朽化が目立っている状態です。そこへ平成 28 年熊本地震により、既存の杭に損傷を受けるなど、大きなダメージを負いました。現在は、使用に耐えうる復旧修繕工事のみを行い、運営を続けていますが、今後より安全で魅力あるゲートを整備する必要があります。

そこで、これを機に動植物園マスタープランの重点事業として、また開園 100 周年の節目を迎えるにふさわしい動植物園の新たなシンボルとして、正面ゲートのリニューアルを行います。

リニューアルにあたっては、スムーズな入退園動線計画、バリアフリー対応、掲示方法の改善、管理事務所機能統合によるサービス及び利便性向上、売店・飲食店の充実等を検討し、より優しく、魅力あふれ、来園者の皆様から愛される正面ゲートを目指します。

また、正面ゲートのリニューアルについては、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）の枠組みの中でも併せて検討を行います。



(写真) 現在の正面ゲート

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7-(2)-① 正面ゲート リニューアル	調査	設計	工事	運用		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	運用					

②ベビーカーや車椅子、高齢者に優しい園路の整備

全ての来園者が快適に園内を散策できるよう維持管理に努めていますが、埋設管掘削工事、地盤沈下、経年劣化等により園路に凹凸や段差が発生しており、通行の妨げになっている箇所が点在しています。通行の妨げとなっている箇所をフラットに改修し、誰もが安全にストレス無く通行できる園路へと変えます。

また、目線の低いベビーカーや車椅子等の方の視線を遮らないよう、高さ、形状、構造を考慮したフェンスや手摺の採用も検討します。



(写真) 現在の中央ステージ横の園路 (写真) 現在のオタリア舎横の園路

【スケジュール】

7－(2)－② 園路の整備	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	調査	設計	工事		実施	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施				工事	

③夏の日差しを木陰で遮られた休憩スペースやベンチの設置

動植物園は約 24.5ha という広大な敷地を有しており、休憩スペースの適切な配置は、快適な空間づくりを行う上で、必要不可欠です。

来園者アンケート（P.71 参照）でも「ゆとりある広場や木陰の空間づくり」が必要であると、198 名（37.5%）の方が回答されています。

現在設置しているベンチの見直し、改修を行うとともに、木陰の休憩スペースや、一定の間隔でのベンチの追加設置を行います。



（写真）ベンチ設置後のイメージ

（写真）現在の破損したベンチ

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7－(2)－③ 休憩スペース、 ベンチ設置	検討	設置	実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

④快適性・娯楽性を兼ね備えた体験型涼場づくり

来園者アンケート（P.69 参照）では、「暑さ・寒さ対策」について、やや不満を含め、不満という回答が、92 名（17.7%）から寄せられています。

動植物園は、基本的に屋外施設ということから、気温の高い夏場は入園者数が大幅に減少するなど、季節や天候によって入園者数が変動することは避けられません。

屋外施設としては、「暑さ・寒さ対策」について有効な対策が取れないのが現状ですが、暑い夏に少しでも涼しげな演出ができるよう、花の休憩所前に設置してある噴水施設を見直し、「見る」から「触れる」という施設への転換を検討します。これにより夏場は子供たちの遊び場となるとともに、大人もミスト等で涼を得られ、また夜間開園時はミストにライトアップを施すことで快適性と娯楽性を兼ね備えた新たなシンボリックなスポットを提供し、動植物園のさらなる魅力アップを目指します。



（写真）花の休憩所前噴水



（写真）体験型涼場イメージ

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7ー(2)ー④ 体験型涼場 づくり	調査	検討	設計	工事	運用	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	運用					

⑤案内サインの改修

現在の案内サインは、老朽化が進んでいるのに加えて、表示位置が高く、文字も小さいため、小さな子どもや高齢者には見え難い状況です。

今後の海外からの観光客も見据えて外国語にも対応する等、案内サインの見直し及び改修を行い、来園者の誰もがわかりやすい動植物園の構築を目指します。

また、市電「動植物園入口」電停から正面ゲートまでの園路についても、動植物園の入口として、わくわく感が高まるような案内サインの設置についても、検討を行います。



(写真) 現在の案内サイン

【スケジュール】

7-(2)-⑤ 案内サイン改修	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
			検討	設置	実施	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

⑥誰もが使いやすいトイレ（洋式化・温熱洗浄機能付）

今回実施した来園者アンケートの結果を見ると、改善意見（P.75 参照）では 183 名のうち最多の 38 名（20%）がトイレについての要望が寄せられ、その意見の多くが「洋式化」「清潔なトイレの充実」となっており、今後早急な対応が必要であると考えています。

現在、74 箇所あるトイレのうち洋式は 11 箇所にとどまり、また利用者の多い屋外トイレの 5 棟全てが築 25 年を過ぎており、屋根、外壁、衛生設備が老朽化している状況です。

今後洋式化への改修を進めるとともに、園内での配置を見直し、また音響や擬音装置に動物の声を取り入れるなど、動植物園らしい演出を行うことにより快適空間の創出を図ります。



（写真）現在の子ども列車横屋外トイレ（1989 年(H1)築）

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7ー(2)ー⑥ 園内トイレ改修	調査	設計	工事		実施	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施			設計	工事	

⑦夜間開園に対応した園内照明の改修

2017 年度(H29°)は、2 年ぶりの夏の夜間開園、そして初めての試みとしてクリスマスの夜間開園を実施しましたが、5 日間で延べ 2 万 2 千人もの来園者があり、予想以上の人気イベントとなりました。

これまでも夏休み期間中は恒例のイベントとして夜間開園を実施してきましたが、もともと夜間開園を想定して街路灯が設置されていなかったことから、夜間開園に際しては事前に照明確保のために提灯を設置する必要があり、その設置には年間 240 万円の予算を費やしている状況です。

また現在街路灯で使用している水銀ランプが LED ランプの普及によりメーカーが製造を中止し入手困難となりつつあることから、既存の街路灯を LED に取り替える必要があります。

夜間開園については、来園者アンケート（P.70 参照）でも一番人気であったことから今後も継続して実施していきたいと考えており、季節に応じて柔軟に夜間開園の対応ができ、また水銀ランプの供給停止に備えるためにも園内照明の改修、増設を行います。



（写真）現在の照明設備



（写真）夜間開園の様子

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7ー(2)ー⑦ 園内夜間照明 改修	調査	設計	工事		実施	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

⑧様々な年代の来園者が楽しめる遊戯施設の導入

遊戯施設使用料は、歳入全体の 54%を占めており、園にとって重要な収入源となっています。

しかしながら現在は、特に人気のあったディスク・オーは老朽化による故障、そしてスーパーバイキングは地震により損傷したため既に撤去されており、小学校高学年や中高生をターゲットとした遊戯施設がない状況です。

今後新たな機種を導入する必要がありますが、導入検討に際しては、幅広い年代層にも楽しめる遊戯施設の導入を、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）の枠組みの中で検討し、子育て世代のみならず、新たな来園者の獲得へつなげます。



(写真上) 被災し撤去した
スーパーバイキング



(写真右) 老朽化で撤去した
ディスク・オー

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7-(2)-⑧ 新たな遊戯施設の導入	調査	調達	工事	実施		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

⑨災害等の非常事態への対策について

2016年(H28)4月に発生した熊本地震で、動植物園も甚大な被害を受けました。前震、本震ともに発災は閉園時でしたが、もし開園時に地震が発生していれば、多くの来園者に混乱をまねく事態が予想されました。

熊本地震での経験や被害状況をもとに、既存の非常事態対策マニュアルを見直し、新たな災害時マニュアルを策定するとともに、新規・転入職員研修の徹底や防災訓練を実施し、職員の意識と対応レベルの向上を図ります。併せて、来園者にも分かりやすい災害時避難誘導サインを設置し、的確な職員対応と明確な避難指示により、今まで以上に、来園者が安心できる動植物園の構築に努めます。

また、動植物園の駐車場は、熊本地震発生直後より避難者の車中泊スペースとして、更には災害ボランティアセンターとしてボランティア活動の拠点としても利用していただきました。

今後万が一にも大規模災害が発生した場合には、今回の経験を生かして駐車場を一時避難所として提供するとともに、その他の利用方法についても検討を行います。



(写真) 災害ボランティアセンター

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7-(2)-⑨ 災害等の 非常事態への 対策	検討・実施			サイン導入	検討・実施	
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	検討・実施					

8. 「持続可能な動植物園の構築」を行い動植物園の経営改善を目指します。

(1) 「持続可能な動植物園の構築」がなぜ必要なのか。

過去5年間の決算状況（図3参照）を見ると、毎年約7～10億円の税金が投入される状況が続くなど、厳しい経営状況となっています。総コストに対する入園料や駐車場使用料、遊戯施設使用料などの自主財源の歳入は約31%、残りは税金などで賄う一般財源を投入しています。2015年度(H27°)の歳出の構造は、主に人件費や維持管理経費が、歳出の大半を占めています。

この状況下で、動植物園が持続可能な動植物園であり続けるためには、テーマ1から3に掲げたアクションプランを着実に取組むことにより、入園者数の増加を目指すとともに、入園料や駐車場使用料などの見直しの検討を行い、自主財源を確保する必要があります。それと同時に、歳出削減やPPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）など民間活力の導入も検討し、効率的な管理運営を目指さなければなりません。

2029年に、動植物園は開園100周年を迎えます。

その節目を迎えるに当たり、また今後20年後、30年後と愛される動植物園として存続していくために、4つのアクションプランを掲げて取り組んでいくこととします。

項目	2011年度(H23)	2012年度(H24)	2013年度(H25)	2014年度(H26)	2015年度(H27)
1) 歳入					
①使用料					
観覧料（入園料）	92,639	92,106	93,641	91,196	94,807
遊戯施設使用料	169,178	167,721	164,434	182,518	183,534
公園使用料（占用料等）	5,105	4,948	4,952	4,993	4,851
駐車場使用料	0	22,980	24,772	24,037	25,569
（合計）使用料	266,922	287,755	287,799	302,745	308,761
②寄付金（動物サポーター）	2,282	2,428	2,292	2,431	2,611
③交付金	0	0	165,700	17,900	23,100
④その他収入（自販機電気代等）	3,487	3,684	4,365	5,024	4,018
（合計）歳入計	272,691	293,868	460,155	328,099	338,490
2) 歳出					
①維持管理経費	403,212	378,252	406,534	422,282	456,558
②投資（建設等）経費	307,422	422,364	286,249	29,353	59,294
③事業運営経費	22,941	24,992	18,197	17,604	29,954
④人件費（嘱託職員含む）	520,079	511,888	559,643	553,363	531,982
（合計）歳出計	1,253,655	1,337,497	1,270,624	1,022,602	1,077,789
3) 収支差額 1) - 2)	-980,964	-1,043,629	-810,469	-694,503	-739,299

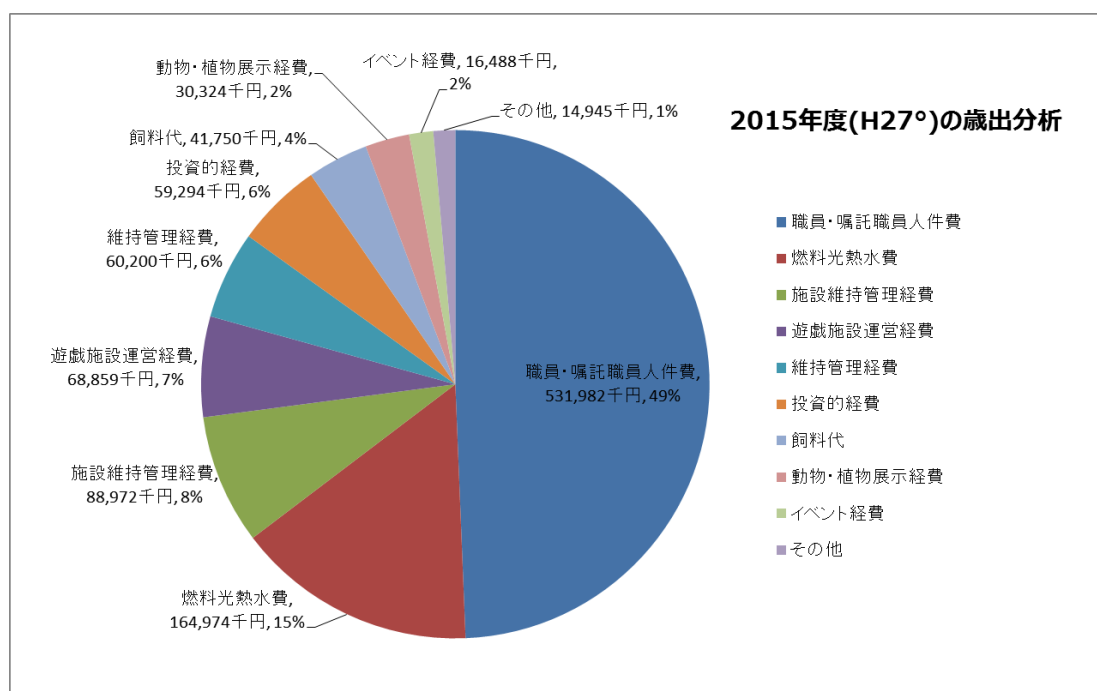
（図3）過去5年間の決算状況

(2)「持続可能な動植物園の構築」をするためのアクションプラン

① 動植物園の歳出について

2015 年度(H27°)の動植物園の歳出構造を分析すると、次のとおりです。
((図4) 2015 年度(H27°)用途別支出分析参照)。まず、職員や嘱託職員の人件費が、歳出全体の約 49%を占めています。次いで、燃料光熱水費(電気代や水道料金など)が歳出全体の 15%を占めています。また、施設維持管理経費は歳出全体の 8%を占めており、遊戯施設や動物舎などの施設を維持するための工事や修繕を行っています。さらに、遊戯施設を運行するための運営経費や、施設の保守点検や清掃を行う維持管理経費、動物のエサである飼料代を加えると、運営上欠かせない経常経費が歳出総額に対して、89%を占めている状況です。

入園料等の自主財源で賄っている歳出は、現在約 31% (自主財源比率)に留まっていることから、自主財源で賄う経費を整理し、来園者の負担を最小限にするための歳出削減に取り組む必要があります。



(図4) 2015 年度(H27°)の用途別歳出分析

(7) 入園料等の自主財源を充当する経費について

歳出削減への取組みは、まず入園料等の自主財源で賄う歳出をどのようなものにし、また歳入確保とのバランスをどのようにしていくかの検討が必要ですが、その検討結果を、整理をしたものが、下表（(図5) 自主財源で賄う経費の考え方）のとおりです。

原則として、現在の動植物園を維持するための経費（ただし、職員・嘱託職員の人件費を除く）を入園料等の自主財源で賄うことが必要と考えました。投資的経費については、新たな施設を導入や施設の大幅改修などを行うための経費であることから、今後国からの交付金の活用や、民間活力の導入に向けた検討を行うなどし、一般財源の圧縮に努めることとします。

動植物園を維持するための経費（職員・嘱託職員の人件費を除く）を自主財源で賄うとなると、2015年度(H27°)ベースで現在の自主財源比率約31%を45%に引き上げる必要があります。しかしながら、自主財源比率を一気に14%引き上げることは困難であるため、2021年度を目標に自主財源比率38%を達成し、更に2028年度を目標に自主財源比率45%を達成できるように、段階的に取り組みを行います。



	2015年度決算額	区分
職員・嘱託職員人件費	531,982千円	一般財源
燃料光熱水費	164,974千円	自主財源
施設維持管理経費	88,972千円	自主財源
遊戯施設運営経費	68,859千円	自主財源
維持管理経費	60,200千円	自主財源
投資的経費	59,294千円	国庫補助金・地方債・寄附金
飼料代	41,750千円	自主財源
動物・植物展示経費	30,324千円	自主財源
イベント経費	16,488千円	自主財源
その他	14,945千円	自主財源
自主財源比率		45%

(図5) 自主財源で賄う経費の考え方

(イ) 更なる歳出削減への取り組みについて

自主財源比率を少しでも改善するために、燃料光熱水費をはじめとする、自主財源で賄うべき経費の削減に取り組みます。また、効率的な管理運営の構築に向けた検討を継続的に行います。

a.燃料光熱水費について

燃料光熱水費は、主に電気代、水道料金や下水道使用料、ガソリン代等の燃料費があります。使用量の節約などを行い、更なる削減を目指します。

b.施設維持管理費について

施設維持管理費は、施設の修繕や補修工事費、遊戯施設の整備費などがあります。今後、施設の長寿命化計画を策定し、更なる削減を目指します。

c.飼料代について

飼料代は、動物に与えるエサ代です。エサを野菜から栄養価の高いペレットに転換していくことにより、更なる削減を目指します。

d.イベント経費について

各種イベントなどの見直しを行うことで、更なる削減を目指します。

e.効率的な管理運営の推進について

遊戯施設やカフェ等の運営について PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）などの民間活力の導入も検討し、収支改善を目指します。

【スケジュール】

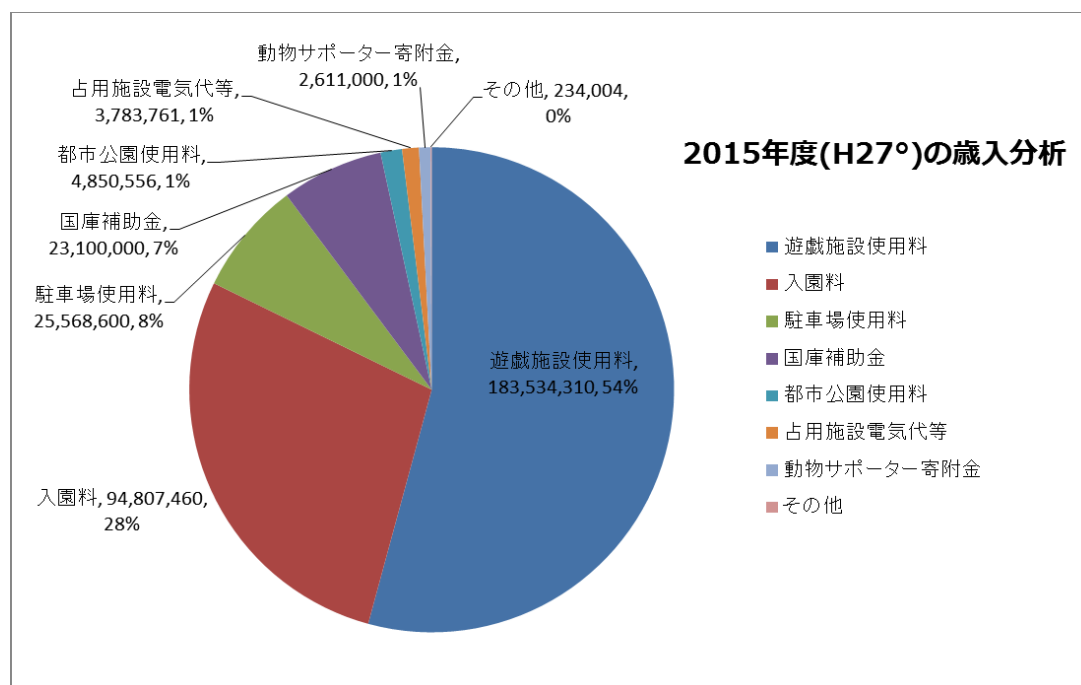
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
8-(2)-①-(イ) 歳出削減に 向けた取組み						
	継続実施					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	継続実施					

② 動植物園の歳入の確保について

2015 年度(H27°)の動植物園の歳入は、約 338 百万円となっています。歳入の構造を分析すると、次のような構造になっています（(図 6) 2015 年度(H27°)の歳入分析参照）。まず、遊戯施設使用料が全体の 54%を占めている状況です。次に入園料収入が 28%、駐車場使用料が 8%となっています。その他に、投資的経費の歳出に付随する国庫補助金や、都市公園使用料、動物サポーター寄附金などがあります。

8-(2)-①-(ア)「入園料等の自主財源を充当する経費について」で述べたように、2028 年度を目標に、自主財源比率 45%を達成するように取り組む必要があると考えています。しかしながら、2015 年度(H27°)決算においては、歳入が約 338 百万円で維持管理経費と事業運営費が約 1,078 百万円となり、目標とする自主財源比率 45%に対する不足額が 147 百万円となります。歳出削減だけで達成することが非常に困難であることから、今まで以上の歳入を確保する必要があります。

動植物園の主な歳入である、遊戯施設の新たな使用料の確保や入園料、駐車場使用料などの見直しを検討します。



(図 6) 2015 年度(H27°)の歳入分析

(7) 入園料の見直しについて

現在の動植物園の入園料は、「(図7) 動植物園の入園料」のとおりです。

まず、大人の入園料について、他の政令指定都市及び入園者数 60 万人以上の地方公共団体が運営する日本動物園水族館協会加盟の園（以下、「他都市の園」という。）との比較を行いました（(図8) 他都市の入園料の比較）。熊本市は、他都市の園（無料である園を除く）の入園料の平均 569 円と比較すると、非常に安い入園料となっています。また、動植物園は 1997 年(H9)以降、約 20 年間入園料を据え置いている状況です。

これらの状況を踏まえ、2021 年度に自主財源比率 38%の達成を目指すために、歳出削減と併せて、入園料の改定に取り組みます。また、入園者数増加に向けた取り組みや歳出削減を行いながら、2028 年度の自主財源比率 45%の達成が非常に困難であるときは、再度 2027 年度を目処に、さらに入園料の改定を行う必要があると考えています。

熊本市動植物園入園料

区分	金額
一般 1人1回につき	300円(団体の場合は、240円)
小学生・中学生 1人1回につき	100円(団体の場合は、80円)
幼児 1人1回につき	無料

(図7) 動植物園の入園料

政令指定都市及び来園者数60万人以上のおとな入園料の比較

入園料	園名
820円	旭山動物園
800円	ズーラシア、到津の森公園
700円	千葉市動物公園
610円	日本平動物園
600円	円山動物園、上野動物園、多摩動物公園、豊橋総合動植物公園、京都市動物園、王子動物園、福岡市動物園
510円	埼玉県こども動物自然公園、安佐動物公園
500円	横浜市立金沢動物園、東山動物園、天王寺動物園
480円	八木山動物公園
410円	浜松市動物園
400円	井の頭文化園
300円	熊本市動植物園
200円	姫路動物園
無料	江戸川区自然動物園、夢見ヶ崎動物公園、野毛山動物園

(図8) 他都市の入園料比較表

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
8-(2)-②-(ア) 入園料の見直しについて	検討・条例改正		実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	再検討					

(イ) 駐車場使用料の見直しについて

現在の動植物園の駐車場使用料は、「(図 9) 動植物園の駐車場使用料」のとおりです。

普通車等の駐車場使用料について、他都市の園との比較を行いました。
(図 10) 他都市の駐車場使用料の比較

動植物園の駐車場使用料は、全国的に見ても安く、また有料化している他都市の園で、平日無料となっている園は 1 つもない状況です。ただし、東京都や大阪市など駐車場を持っていない園や土地の地価に差があるなど、一概に比較することはできません。そこで、動植物園から半径 1 k m の時間貸し民間有料駐車場の比較を行いました。比較する料金の設定時間は、来園者アンケートの自家用車で来園された平均滞在時間である 3 時間を基準とし、価格の比較を行いました。比較の結果、安い場所で 300 円、高い場所で 600 円となり、平均 486 円であることから、動植物園の駐車場は周囲の状況に比べ安く設定されています。(図 11) 近隣時間貸し民間駐車場料金比較を参照)

これらの状況を踏まえ、2021 年度に自主財源比率 38% の達成を目指すために、歳出削減と併せて、駐車場使用料の改定に取り組みます。また、歳出削減を行いながら、2028 年度の自主財源比率 45% の達成が非常に困難であるときは、再度 2027 年度を目処に、さらに駐車場使用料の改定を行う必要があると考えています。

熊本市動植物園駐車場使用料

使用日	大型自動車(1台1回につき)	中型自動車および普通自動車(1台1回につき)
土曜日、日曜日及び休日	1,000円	200円
平日	無料	無料

(図 9) 動植物園の駐車場使用料

政令指定都市及び来園者数60万人以上の普通車駐車場使用料の比較

使用料	園名
1,000円	ズーラシア
900円	王子動物園(時間貸)
800円	東山動物園
700円	円山動物園、千葉市動物公園
610円	日本平動物園
600円	埼玉県こども動物自然公園、横浜市立金沢動物園、到津の森公園
500円	八木山動物公園(時間貸・最大料金)、福岡市動物園
450円	安佐動物公園
200円	浜松市動物園、豊橋総合動植物公園、 熊本市動植物園(土・日・祝日のみ)
無料	旭山動物園、夢見ヶ崎動物公園(19台のみ)
駐車場なし	上野動物園、多摩動物公園、井の頭文化園、江戸川区自然動物園、野毛山動物園、京都市動物園、天王寺動物園、姫路動物園

(図 10) 他都市の駐車場使用料比較表

動植物園から半径1キロメートルの民間コインパーキング一覧

	駐車台数	比較料金(3時間)	料金設定
1	5台	600円	60分200円 24時間まで600円打切
2	5台	500円	40分100円 8:00～20:00まで500円打切 20:00～8:00まで400円打切
3	10台	300円	60分100円 12時間まで500円打切
4	7台	500円	7:00～17:00まで 40分100円 17:00～7:00まで 90分100円 打切料金なし
5	4台	500円	8:00～20:00まで 40分100円 20:00～8:00まで 60分100円 20:00～8:00までは500円打切
6	5台	500円	40分100円 24時間まで700円打切
7	6台	500円	8:00～20:00まで 40分100円 8:00～20:00までは800円打切 20:00～8:00まで 60分100円 20:00～8:00までは500円打切
平均値		486円	

※比較料金は、来園者アンケートの滞在時間の平均約3時間の料金。

(図 11) 近隣時間貸し民間駐車場料金比較

【スケジュール】

8-(2)-②-(イ) 駐車場使用料の 見直しについて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	検討・条例改正		工事	実施		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	再検討					

(ウ) 遊戯施設導入による使用料の確保について【(再掲：7-(2)-⑧

・P.43 参照)】

人気のあったディスク・オーは老朽化による故障、そしてスーパーバイキングは地震により損傷したため既に撤去されており、小学校高学年や中高生をターゲットとした遊戯施設がない状況です。

今後新たな機種を導入する必要がありますが、導入検討に際しては、幅広い年代層にも楽しめる遊戯施設の導入を、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）の枠組みの中で検討し、子育て世代のみならず、新たな来園者の獲得へつなげます。

【スケジュール（再掲）】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7-(2)-⑧ 新たな遊戯施設の導入	調査	調達	工事	実施		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

(I) 新たな来園者の獲得に向けた広報について

動植物園の広報の現状は、園公式ホームページ、市フェイスブック、市政だより等の広報媒体を利用した継続的な情報発信や、イベント時に作成するチラシ・ポスター、マスメディアへの話題提供、園内で配布するパンフレット（園内マップ）です。

課題としては、ターゲットに合わせた効果的な情報発信方法が検証できていないことです。たとえば若い世代が情報源としている SNS の活用はあまりできていません。

動植物園の情報を必要としている人の目的はさまざまです。ターゲットに合わせた情報発信方法を検証し、広報媒体の特徴を活かした「伝わる」広報への転換を図ります。

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
8-(2)-②-(ウ) 新たな来園者の獲得に向けた広報について	検証	検証・実施				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	検証・実施					

(カ) 新たな来園者の獲得に向けたイベントについて

動植物園がこれまで取り組んできたイベントは、「春のこどもまつり」や「秋桜まつり」など繁忙期に強化して取り組んできました。（(図 1 2）2015 年度（H27°）の主なイベントを参照）

これらのイベント開催は、リピーターの確保やパブリシティ戦略のきっかけとなり、今後必要であると考えています。

また、夏季や冬季の閑散期対策を講じ、家族連れ以外の新たなターゲット獲得のために大人向けのイベントを開催することで、新たな来園者の獲得を目指すことも必要です。

今後のイベントについては、年間計画を随時見直し、閑散期対策としてのイベントや繁忙期に効果的なイベントを実施し、実施したイベントを評価・検証することで、来園者のニーズに即したイベント計画へ見直します。

2015年度(H27°)の主な動植物園主催イベント

実施時期	イベント名
5 月ゴールデンウィーク	春のこどもまつり
5 月中旬	ホタル観賞会
6 月上旬	ドリームナイト・アット・ザ・ズー in くまもと
7 月～8 月 夏休みの毎週土曜	夏の夜間開園
9 月上旬	ドリームナイト・アット・ザ・ズー in くまもと 秋
1 0 月上旬の 3 連休	秋桜まつり
1 月 2 日～3 日	新春こどもまつり & 干支の動物展

(図 12) 2015 年度(H27°)の主なイベント

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
8－(2)－②－(エ) 新たな来園者の獲得に向けた イベントについて	検証	検証・実施				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	検証・実施					

③ 園内施設の長寿命化対策について

園内には、動物舎、管理施設、花の休憩所などの建築物が 84 棟、それに付随する機械・電気設備、その他遊戯施設などがあります。

これらの施設の維持管理については、現在発生的修繕(壊れた時に修繕を行う。)を必要最小限に行っていますが、これでは建物や設備の老朽化を防ぐことはできず、建替えや設備の更新のサイクルが早くなってしまう恐れがあります。今後 10 年間で現在の施設を維持するためには、約 14.8 億円の経費が必要になると見込んでいます((図 13) 今後 10 年間の施設改修経費参照)。

この経費を少しでも圧縮するためには、「傷む前に直して、可能な限り長期間使う」予防保全策を講じる必要がありますが、そのためには施設ごとの維持管理計画を策定し、その計画に基づき効率的・効果的な維持管理を行うことが求められます。

そこで当園では、2018 年度(H30°)に動植物園の長寿命化計画を策定し、施設の延命を図るとともに、ライフサイクルコストの低減、更には費用の平準化を図ります。

動植物園施設更新計画(2017年度～2026年度)

(単位: 千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	設備ごと計
遊戯施設	15,200	9,600	68,400	21,000	22,900	10,000	25,000	6,350	7,500	31,200	217,150
動物舎	0	0	265,000	77,500	0	0	0	0	0	0	342,500
管理施設	2,100	20,000	0	10,000	150,000	0	0	0	0	0	182,100
建築物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気設備	1,000	62,330	60,000	60,000	60,000	50,000	1,600	50,000	10,000	10,000	364,930
空調調和設備	0	13,800	111,000	25,000	24,700	25,000	23,500	38,000	25,000	13,000	299,000
衛生器具設備	0	0	6,500	60,000	0	0	0	0	0	0	66,500
給水設備	0	0	2,000	0	6,000	0	0	0	0	0	8,000
排水設備	0	1,100	2,500	2,500	700	1,200	1,000	500	0	0	9,500
年度計	18,300	106,830	515,400	256,000	264,300	86,200	51,100	94,850	42,500	54,200	1,489,680

(図 13) 今後 10 年間の施設改修経費

【スケジュール】

8-(2)-③ 園内施設の 長寿命化対策につ いて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	計画策定	予算要求	実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

④ 動物サポーター制度の見直しについて

現在動植物園が行っている寄附金制度として、動物の工サ代を目的とした、「動物サポーター」制度があります。また、2017年(H29)2月25日からの部分開園期間中に、動植物園の災害復旧経費の支援を目的とした、「動植物園復興応援サポーター」制度がありました。

動物サポーター制度は、動植物園復興応援サポーターに比べ寄附目的が市民の皆様へ伝わりにくい面があり、寄附金が伸び悩んでいる状況でした。

今後、動物サポーター制度を廃止し、動植物園の展示施設整備に特化した基金を作り、この計画を基にした展示施設の整備に使うことを目的とした「(仮称)熊本市動植物園100周年施設整備基金」の設立に向けて検討を行います。

動物サポーター寄附金年度別推移表

年度	口数	金額
2005年度	1,903	3,222,000
2006年度	1,519	2,475,000
2007年度	1,164	1,908,000
2008年度	1,492	2,454,000
2009年度	1,538	2,489,000
2010年度	1,552	2,545,000
2011年度	1,409	2,282,000
2012年度	1,466	2,428,000
2013年度	1,431	2,292,000
2014年度	1,515	2,431,000
2015年度	1,615	2,611,000
2016年度	118	174,000
合計	16,722	27,311,000

復興応援サポーター寄附金年度別推移表

年度	件数	金額
2016年度	376	4,001,667
2017年度	442	13,322,860
合計	818	17,324,527

※2016年度は2017年2月25日から開始

※2017年度は2017年11月末現在

(図15) 復興応援サポーター年度別推移表

(図14) 動物サポーター年度別推移表

【スケジュール】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
8-(2)-④ 動物サポーター制度の見直しについて	検討・条例制定		実施			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
	実施					

9. アクションプランの全体スケジュール

5－(2)－①－(イ) 開園100年に向けた整備計画	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討				基本計画	基本設計	詳細設計	工事			
5－(2)－①－(ウ) 展示方法の改善	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	計画策定	実施									
5－(2)－②－(ア) コレクションプランの策定	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討	策定	継続実施								
5－(2)－②－(イ) 調査・研究事業の推進	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	実施										
5－(2)－③－(ア) いきもの学習センターの整備	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	計画策定				運用(ソフト整備、現行施設活用)			設備設計	施設整備(常設展示)		施設整備(水槽等施設)
5－(2)－③－(イ) 学習プログラムの整備	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	実施										
6－(2)－① 江津湖畔を活かしたカフェやレストランを中心とした複合施設の導入	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	調達	工事	実施							
7－(2)－① 正面ゲートリニューアル	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	設計	工事		運用						
7－(2)－② 園路の整備	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	設計	工事		実施						
7－(2)－③ 休憩スペース、ベンチ設置	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討	設置	実施								
7－(2)－④ 体験型涼場づくり	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	検討	設計	工事	運用						
7－(2)－⑤ 案内サイン改修	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			検討	設置	実施						
7－(2)－⑥ 園内トイレ改修	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	設計	工事		実施						
7－(2)－⑦ 園内夜間照明改修	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	設計	工事		実施						
7－(2)－⑧ 新たな遊戯施設の導入	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	調査	調達	工事	実施							
7－(2)－⑨ 災害等の非常事態への対策	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討・実施			サイン導入	検討・実施						
8－(2)－①－(イ) 歳出削減に向けた取組み	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	継続実施										
8－(2)－②－(ア) 入園料の見直しについて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討・条例改正				実施			再検討			
8－(2)－②－(イ) 駐車場使用料の見直しについて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討・条例改正			工事	実施			再検討			
8－(2)－②－(ウ) 新たな来園者の獲得に向けた広報について	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検証	検討・実施									
8－(2)－②－(エ) 新たな来園者の獲得に向けたイベントについて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検証	検討・実施									
8－(2)－③ 園内施設の長寿命化対策について	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	計画策定	予算要求	実施								
8－(2)－④ 動物サポーター制度の見直しについて	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	検討・条例制定						実施				

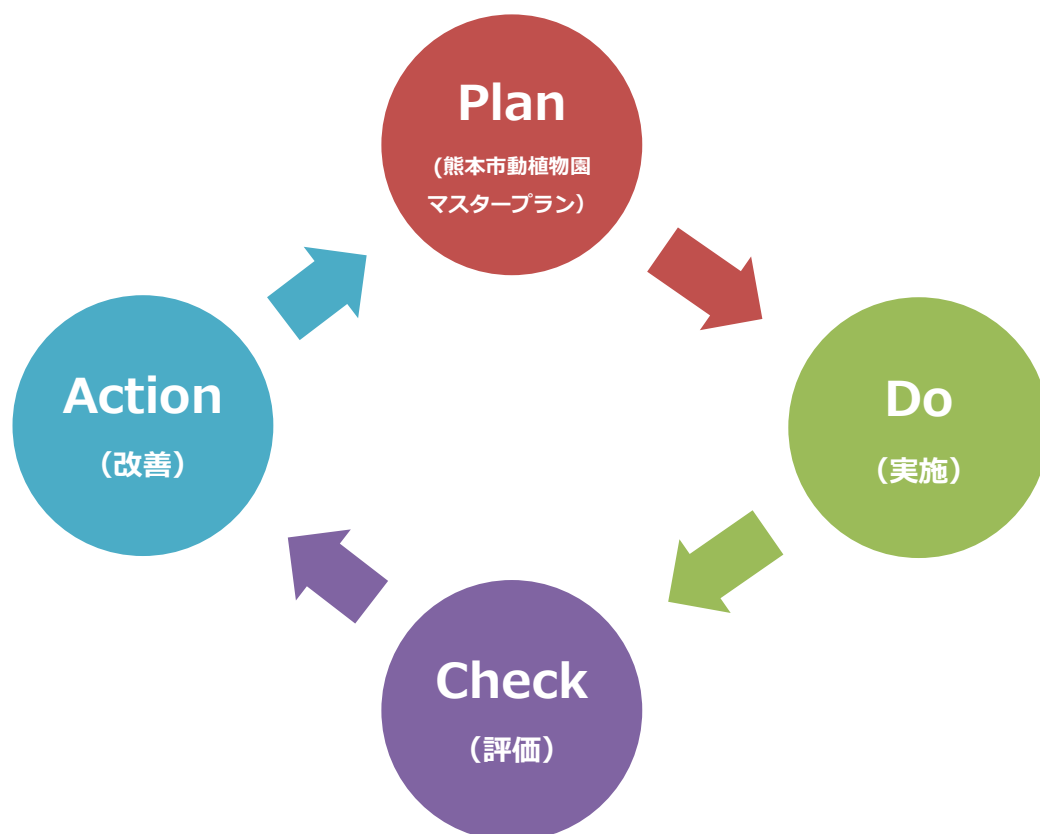
(1) 熊本市動植物園マスタープランの進捗管理・見直しについて

熊本市動植物園マスタープランに掲げた、コンセプト「選ばれる。好きになる。そして、愛される熊本市動植物園へ」を目指すために、各テーマに掲げた、アクションプランを着実に実施していく必要があります。それと同時に、時代に沿ったニーズ、動植物を取り巻く世界情勢の変化に対する対応や、熊本市の財政状況を総合的に判断していくことも必要です。

熊本市動植物園マスタープランに掲げたアクションプランを着実に実施し、そのアクションプランが有効な取組みとなるために、PDCA サイクルに基づき進捗管理を行うことで、今後の事業展開について柔軟に対応します。

なお、動植物園マスタープランの見直しについては、計画年次の変更や軽微な計画の変更については、対象外とします。それぞれの進捗管理の中で、大きな変更が必要になる場合については、随時見直しを行い、反映していくこととします。

【進捗管理イメージ】



1 1. 来園者アンケート調査について

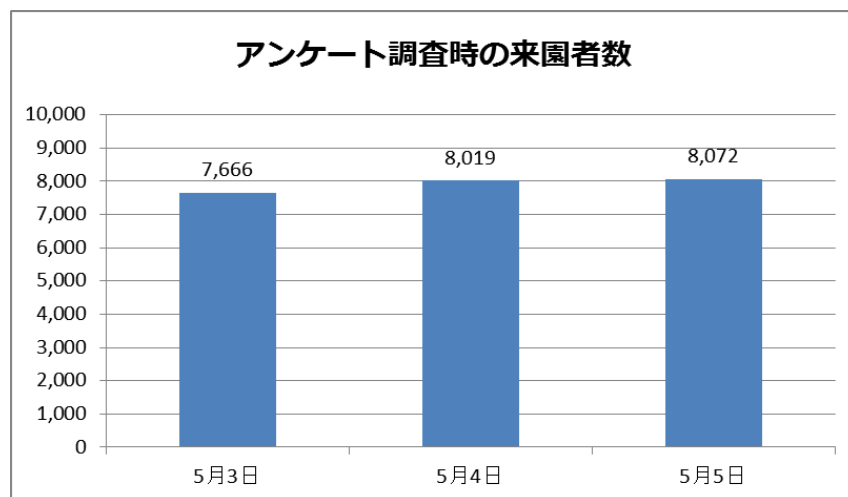
(1) 来園者アンケート調査の実施目的について

動植物園のあるべき姿を検討するにあたり、来園者のニーズを把握することが、重要であると考えました。来園者が動植物園に求めるものは、何か、現施設において、何に満足して、どういうところを改善してほしいかを把握し、今後の動植物園の事業運営の参考にさせていただくために実施しました。

(2) 来園者アンケート調査概要について

- ①実施日 2017年(H29) 5月3日(水)～2017年(H29) 5月5日(金)
- ②場所 動物資料館
- ③時間帯 10:30～15:00
- ④方法等 各日 200名を対象とし、動物資料館に来館した来園者を対象に呼びかけを行い、回答して頂いた方へ、粗品(メモ帳)を進呈しました。
- ⑤回答者数 626名
- ⑥期間中の来園者数について

例年、ゴールデンウィーク期間中は、動植物園が主催するイベント「春のこどもまつり」や熊本市などが主催する「わくわく江津湖フェスタ」が開催されており、2015年度(H27[○])の3日間合計で約3万3千人の来園者にお越しいただいていました。2017年(H29)は熊本地震の影響により、いずれのイベントも中止となりましたが、園の4割程度を開放した部分開園となっている状況にも関わらず、3日間で約2万3千人の来園者にお越しいただきました。



(図 16) アンケート調査時の来園者数



(写真) 回答者への粗品

(3) 来園者アンケートの様式について

「熊本市動植物園」来園者アンケート

本日は、熊本市動植物園にご来園頂き、誠にありがとうございます。

さて、熊本市動植物園では、利用実態調査を兼ねた、来園者アンケートを実施することとしました。

以下の設問について、該当する箇所の番号を○で囲んでください。

Q 1. 年齢についてお聞かせください。

1. 15才以下 2. 16～19才 3. 20代 4. 30代
5. 40代 6. 50代 7. 60代 8. 65才以上

Q 2. お住まいの地域についてお聞かせください。

1. 熊本市内 2. 熊本県内 () 3. 県外 ()

Q 3. 本日は何人でご来園されましたか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

Q 4. 2人以上でご来園の方におたずねします。どなたと一緒に来園されましたか？

1. 家族 2. 友人・知人 3. 団体 () 4. その他 ()

Q 5. 動植物園までの交通手段をお聞かせください。

1. 徒歩 2. 自転車・バイク 3. 自家用車 4. 市電・バス 5. 貸切バス
6. その他 ()

Q 6. 動植物園に来られた「目的」を教えてください。(複数回答可)

1. 動物の観覧 2. 動物ふれあい体験 3. 動物資料館の見学 4. 植物の観覧 5. 遊園地の利用
6. 芝生広場の利用 7. その他 ()

Q 7. 動植物園に来られた「きっかけ」をお聞かせください。

1. 市政だより 2. インターネット(動植物園ホームページ・その他) 3. チラシ・ポスター
4. テレビ・ラジオ 5. 新聞・雑誌 6. 知人から聞いて 7. 地元なので
8. その他 ()

Q 8. 動植物園を1年間に利用される回数をお聞かせください。

1. 1回未満(初めて) 2. 1～2回 3. 3～6回 4. 7～12回 5. 13回以上

Q 9. 本日は、どのくらいの時間滞在(予定)されましたか。

1. 2時間以内 2. 3時間以内 3. 4時間以内 4. 5時間以上

Q 10. 本日、来園された時間帯を教えてください。

1. 9時～10時台 2. 11時～12時台 3. 13時～14時台 4. 15時～16時半

Q 11. 動植物園の現状の満足度等についてお聞かせください。

①料金について

	安い	妥当	高い
入園料(300円)	3	2	1
駐車場使用料(200円)	3	2	1
遊具の料金	3	2	1

②サービスについて

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
遊具の種類	5	4	3	2	1
開園時間	5	4	3	2	1
接客のしかた	5	4	3	2	1

③展示物などについて

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
動植物の種類・数	5	4	3	2	1
展示の見やすさ	5	4	3	2	1
動物資料館	5	4	3	2	1
動物ふれあい広場	5	4	3	2	1
花の休憩所(大温室)	5	4	3	2	1
動物ガイド・教室など	5	4	3	2	1
植物ガイド・展示会など	5	4	3	2	1

④園内施設について

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
売店・レストラン	5	4	3	2	1
トイレ	5	4	3	2	1
授乳室・オムツ交換所	5	4	3	2	1
ベンチ・休憩所	5	4	3	2	1
駐車場	5	4	3	2	1
雨天対策	5	4	3	2	1
暑さ・寒さ対策	5	4	3	2	1
障がい者・高齢者対策	5	4	3	2	1

Q 1 2. 今後も継続してほしい又は参加したい企画若しくは新たに企画してほしいイベントはありますか。

1. 春のこどもまつり 2. ホタル鑑賞会 3. 夏の夜間開園 4. 秋桜（コスモス）まつり
5. 新春こどもまつり 6. 冬の夜間開園 7. 新たに企画してほしい（ ）

Q 1 3. これからの動植物園で、必要だと思われるものはありますか。（複数回答可）

1. ゆとりある広場や木陰の空間づくり 2. 動植物との「ふれあい」「体験」コーナーなど
3. 江津湖などの周囲の水辺空間の活用 4. 子どもたちへの環境教育や野外活動の場としての充実
5. おとなの生涯・体験学習の場としての活用 6. 動物の展示施設の改善
7. 展示する動物の種類や数の充実 8. 動物資料館の展示方法の改善
9. 展示する植物の種類や数の充実 10. 植物・花の休憩所などの展示施設の改善
11. イベントなどの広報の充実 12. 飲食施設（レストランなど）の充実
13. 遊戯施設（遊園地）の充実 14. その他（ ）

Q 1 4. これからの動植物園で、あまり必要と感じられないものはありますか。

1. ある（ ） 2. なし

Q 1 5. 熊本市動植物園を総合的に評価するといかがですか？

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

Q 1 6. 動植物園の「ここは、よかった!」と思うところをご記入ください。

Q 1 7. 動植物園の「ここは、改善してほしい!」と思うところをご記入ください。

Q 1 8. その他ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

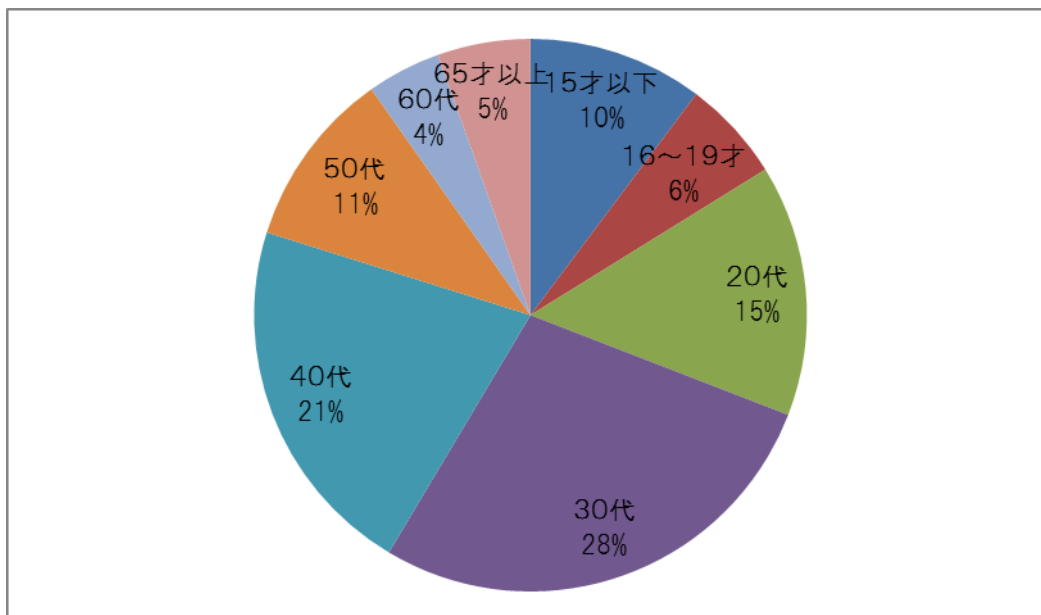
アンケートへのご協力ありがとうございました。

(4) アンケート集計結果について

①年齢構成について

年齢構成については、30代最も多く、次いで、40代となりました。60代以上は約9%と一番少ない状況です。

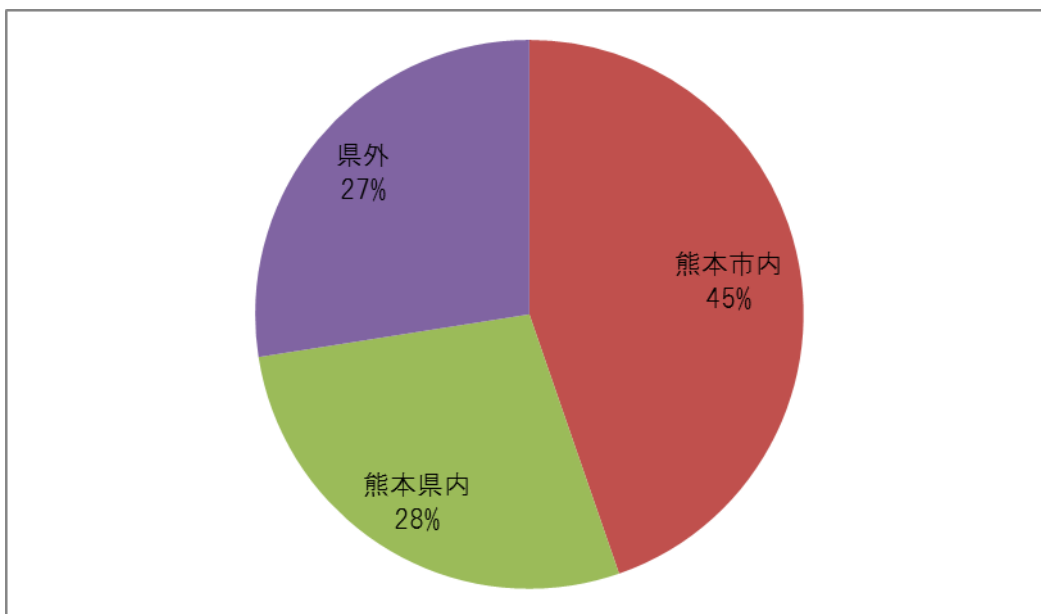
①	15才以下	64	10.2%
②	16～19才	37	5.9%
③	20代	92	14.7%
④	30代	173	27.7%
⑤	40代	133	21.3%
⑥	50代	65	10.4%
⑦	60代	27	4.3%
⑧	65才以上	34	5.4%
無回答		1	-



②居住地について

熊本市内の来園者が、約45%となっていますが、市外・県外の来園者が、半分を超えました。

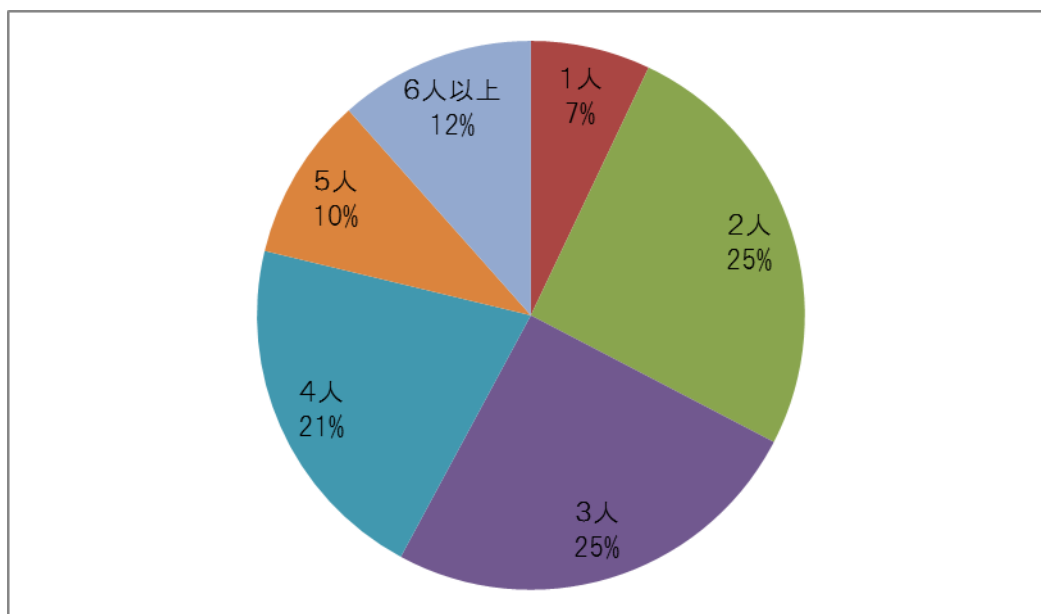
①	熊本市内	278	44.7%
②	熊本県内	173	27.8%
③	県外	171	27.5%
無回答		4	-



③ 1組あたりの人数について

最も多かったのは、3人で来園された方の約25%。
1人で来園された方が、最も少なく、約7%となりました。

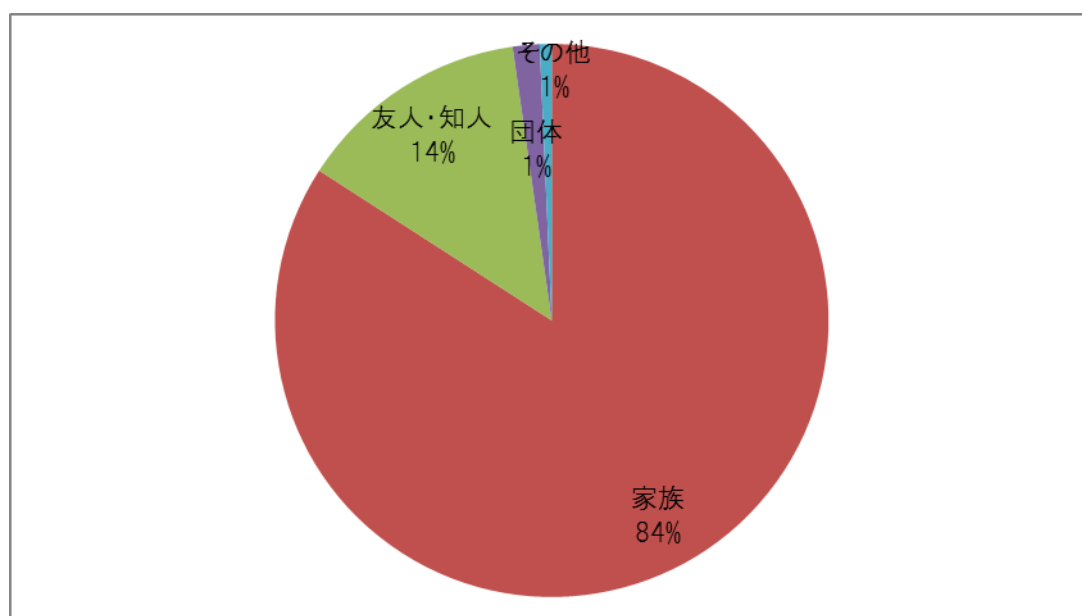
①	1人	44	7.1%
②	2人	159	25.6%
③	3人	157	25.2%
④	4人	130	20.9%
⑤	5人	60	9.6%
⑥	6人以上	72	11.6%
無回答		4	-



④ 複数来園者の関係性について

家族での来園が最も多く、約84%を占めている状況です。
親子連れの来園者が圧倒的に、多い状況です。

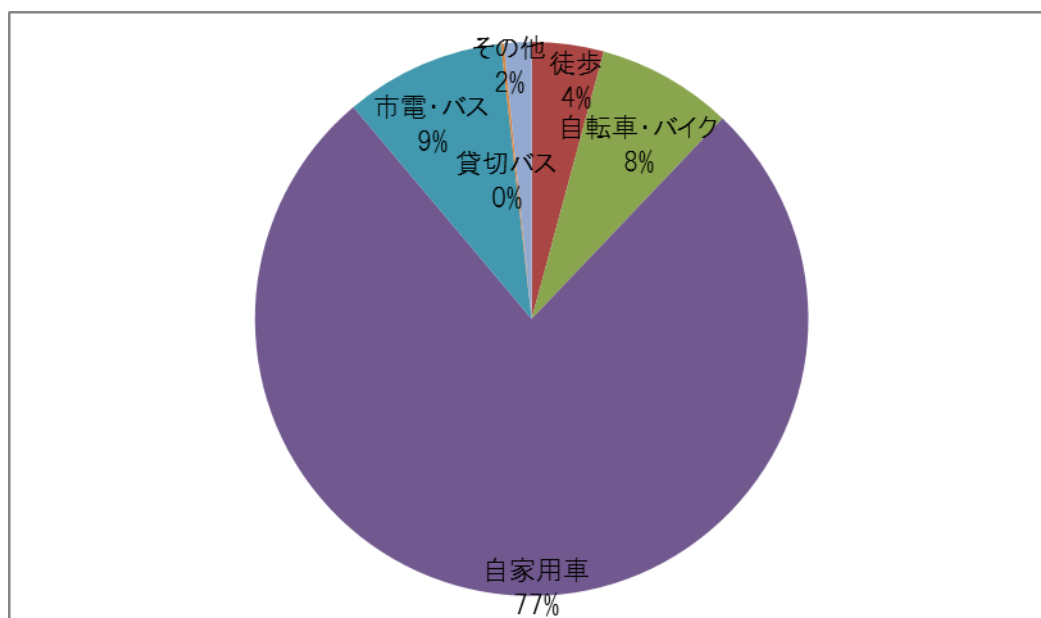
①	家族	482	84.1%
②	友人・知人	78	13.6%
③	団体	9	1.6%
④	その他	4	0.7%
無回答		53	-



⑤交通手段について

自家用車での来園が最も多く、約 76%を占めました。次に、公共交通機関での来園が、約 9%、自転車・バイクが約 8%となりました。

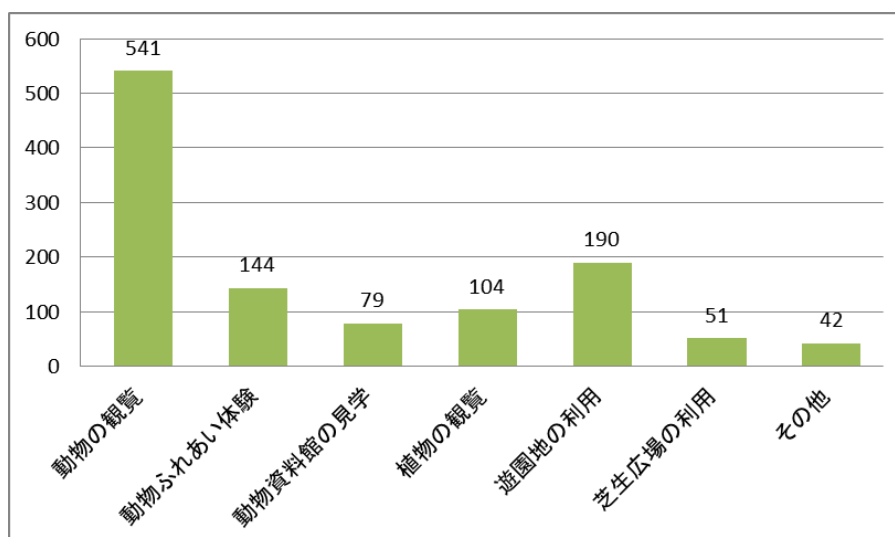
①	徒歩	26	4.2%
②	自転車・バイク	49	7.9%
③	自家用車	475	76.4%
④	市電・バス	58	9.3%
⑤	貸切バス	1	0.2%
⑥	その他	10	1.6%
無回答		7	-



⑥動植物園に来園された目的について

全体の約 87%と多くの来園者が動物の観覧を目的としています。次いで、遊園地の利用が、約 31%となりました。

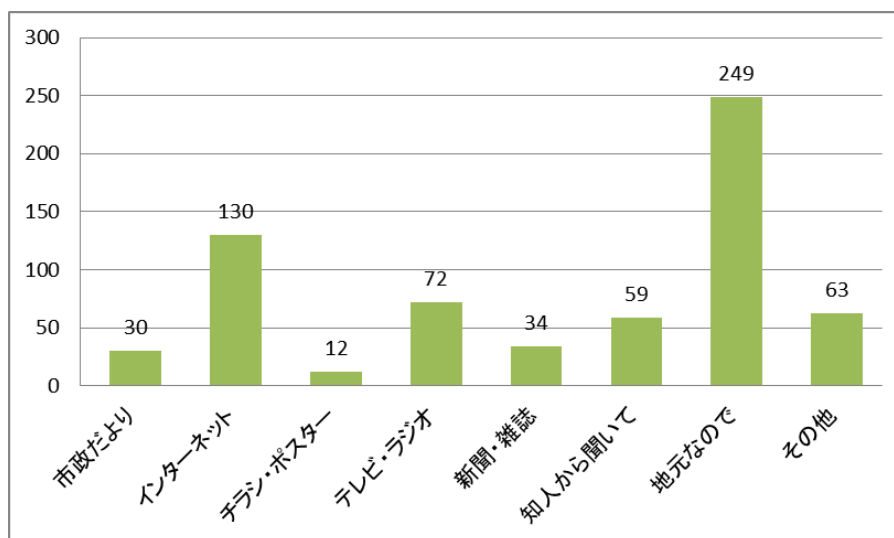
①	動物の観覧	541	87.0%
②	動物ふれあい体験	144	23.2%
③	動物資料館の見学	79	12.7%
④	植物の観覧	104	16.7%
⑤	遊園地の利用	190	30.5%
⑥	芝生広場の利用	51	8.2%
⑦	その他	42	6.8%
無回答		4	-



⑦動植物園に来園されたきっかけについて

地元のなのでと答えた人が、約 38%に上る一方で、インターネットと答えた人も約 20%に達しています。次いで、マスメディアによるものとなりました。

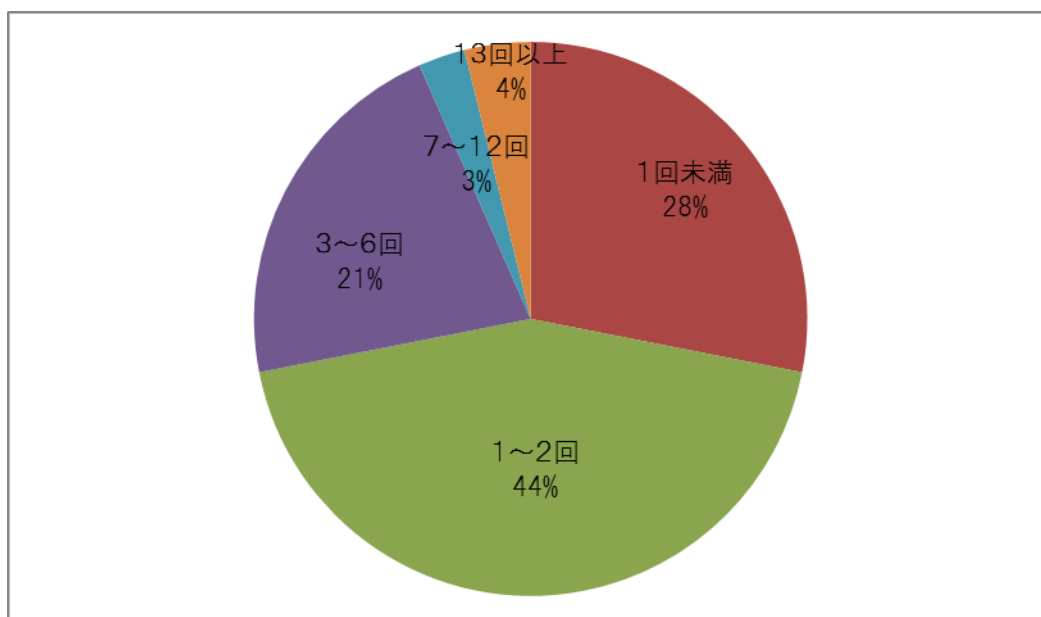
①	市政だより	30	4.6%
②	インターネット	130	20.0%
③	チラシ・ポスター	12	1.8%
④	テレビ・ラジオ	72	11.1%
⑤	新聞・雑誌	34	5.2%
⑥	知人から聞いて	59	9.1%
⑦	地元なので	249	38.4%
⑧	その他	63	9.7%
無回答		15	-



⑧動植物園の年間利用回数について

年間に 2 回以下の方が、約 72%と大半を占めている状況です。3 回以上のリピーターが約 28%となりました。

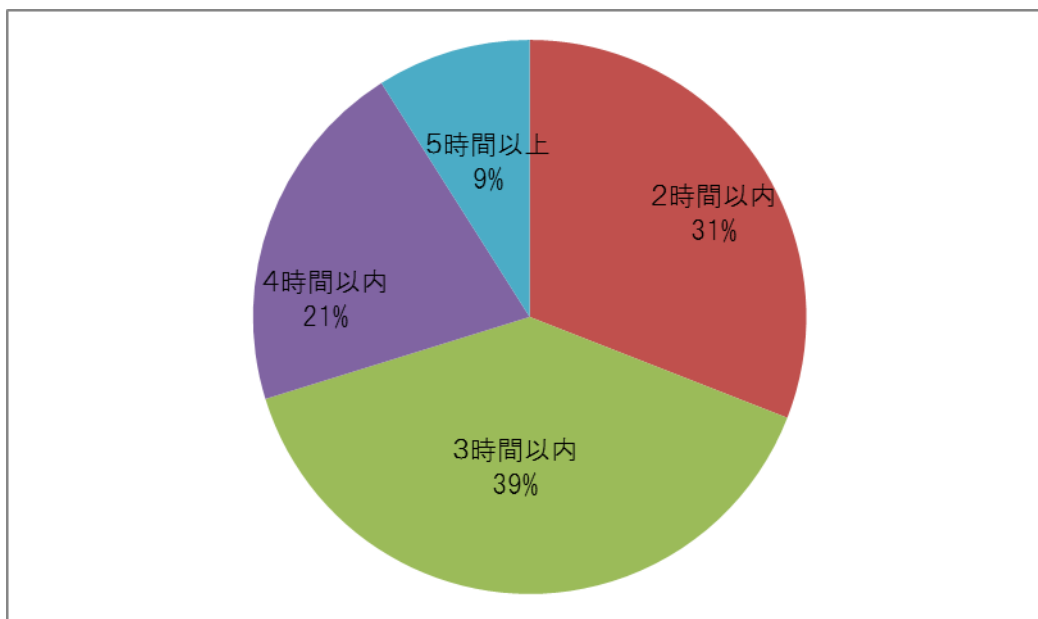
①	1 回未満	175	28.1%
②	1 ～ 2 回	273	43.8%
③	3 ～ 6 回	134	21.5%
④	7 ～ 12 回	17	2.7%
⑤	13 回以上	24	3.9%
無回答		3	-



⑨滞在時間（予定時間）について

部分開園期間中でもあるため、
3時間以内が全体の約70%を占めている状況です。

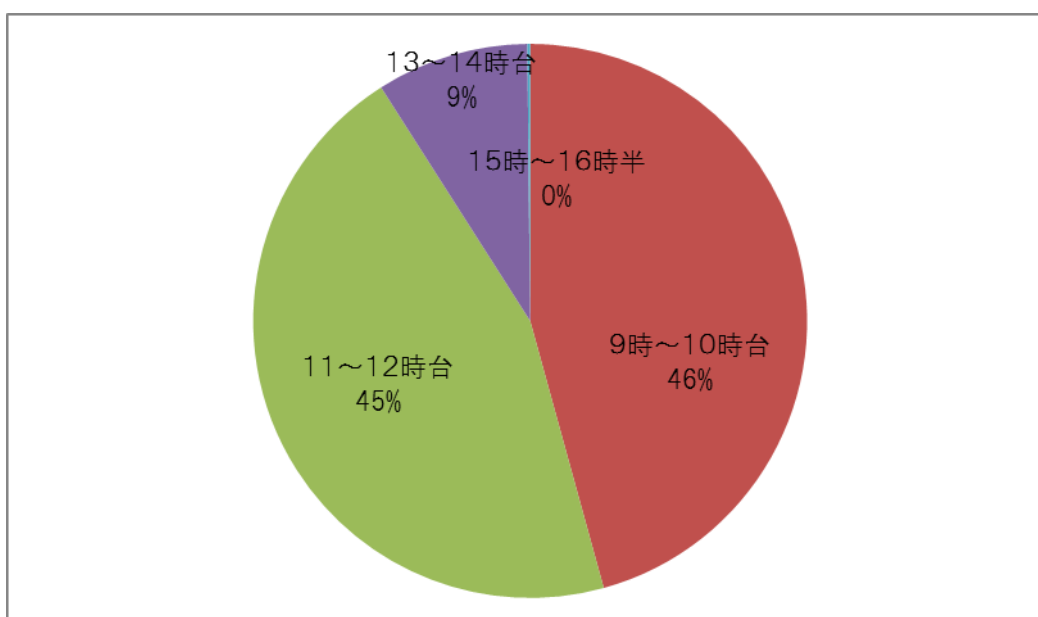
①	2時間以内	189	30.9%
②	3時間以内	240	39.3%
③	4時間以内	127	20.8%
④	5時間以上	55	9.0%
無回答		15	-



⑩入園の時間帯について

来園者アンケートの受付が10時半からであったことも影響していますが、午前中に入園する来園者が、全体の約91%を占めている状況です。

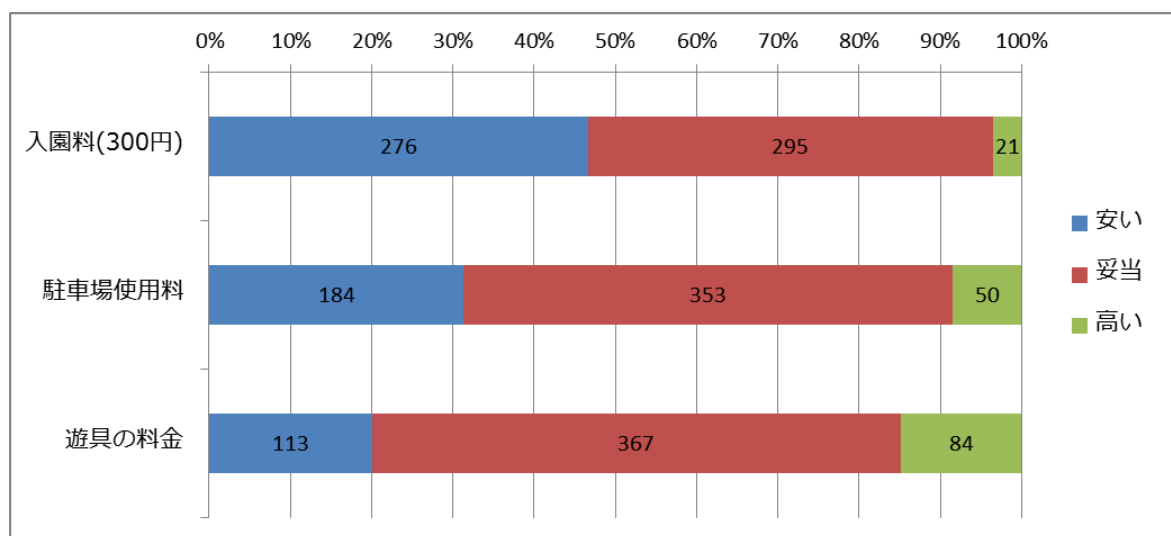
①	9時～10時台	282	45.6%
②	11～12時台	280	45.2%
③	13～14時台	55	8.9%
④	15時～16時半	1	0.2%
無回答		8	-



⑪－１ 動植物園の各種料金等に関する満足度について

入園料及び駐車場使用料については、高いと答えた人が、10%に満たなかった状況ですが、遊具の料金については、約14%が高いと答えています。遊具の料金については、「乗車時間が短い」や「回数券やパス券の導入」などの意見もありました。多くの人が妥当と答える中、入園料については、安いと答える人が、約47%となりました。

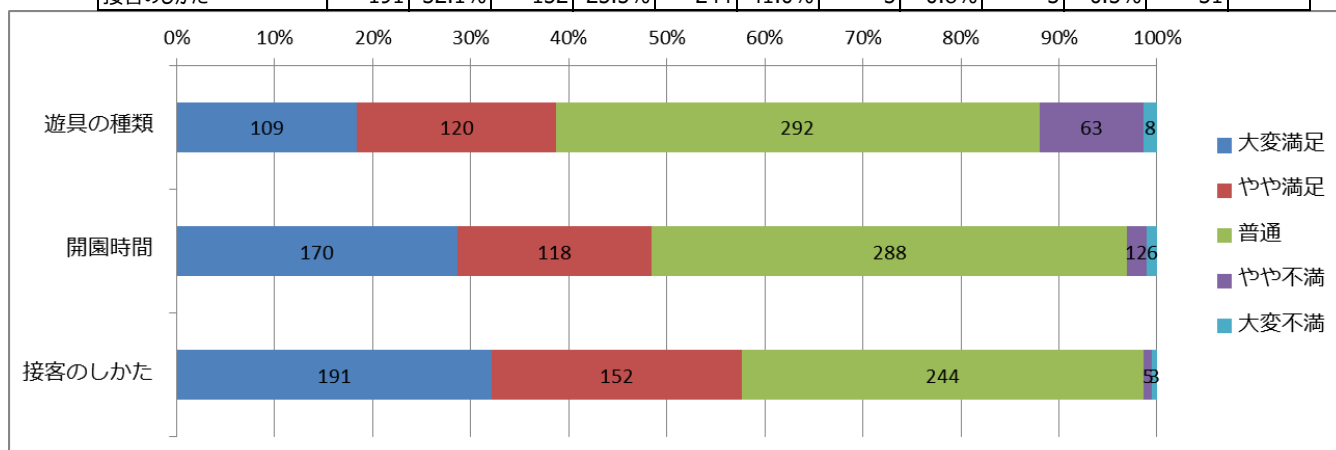
	③安い		②妥当		①高い		無回答	
入園料(300円)	276	46.6%	295	49.8%	21	3.5%	34	-
駐車場使用料	184	31.1%	353	59.6%	50	8.4%	39	-
遊具の料金	113	19.1%	367	62.0%	84	14.2%	62	-



⑪－２ 動植物園のサービスに関する満足度について

遊具の種類については、やや不満を含め不満と答えた人が、12%となりました。一方で開園時間や接客のしかたについては、不満と答えた方は、5%に満たない結果となりました。接客のしかたについては、やや満足を含め、満足と答えた方が、50%を超える状況となりました。

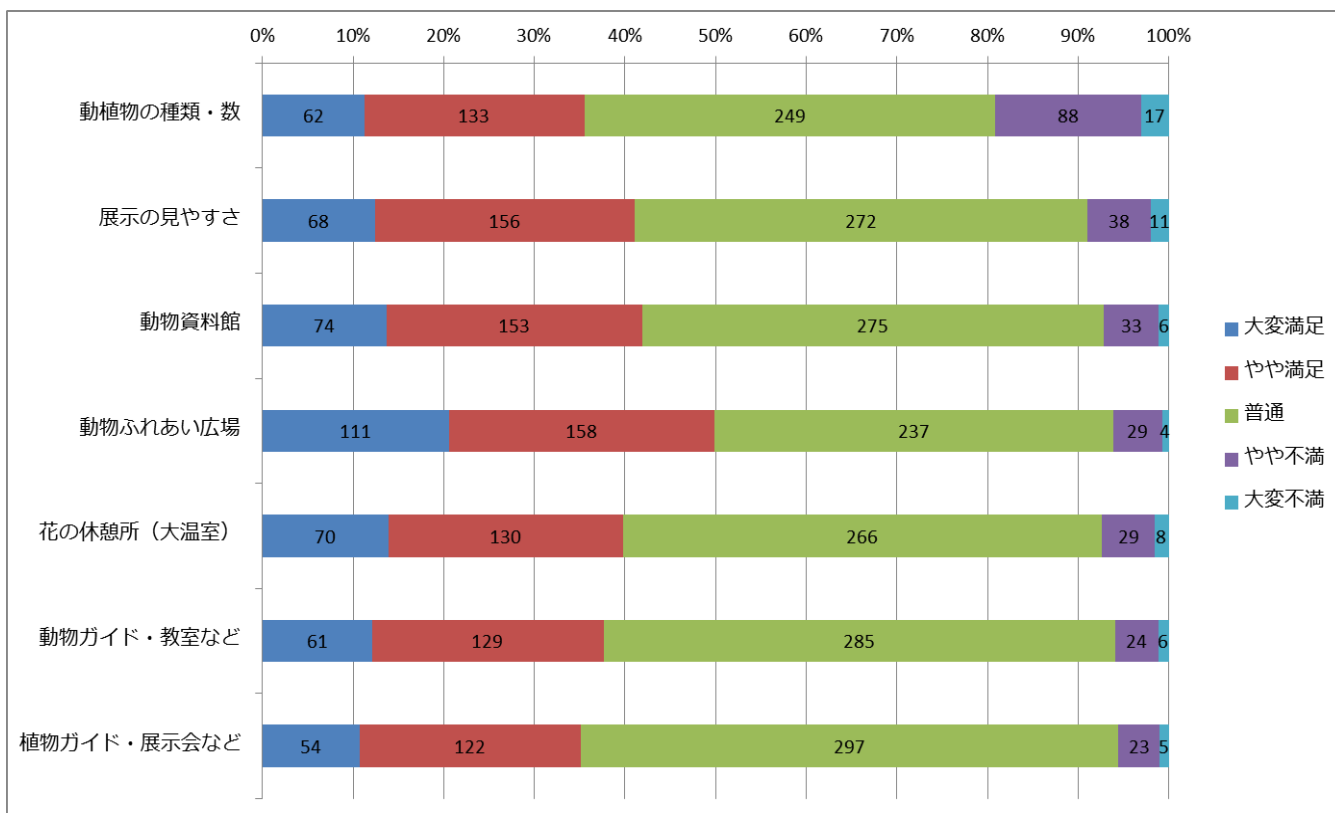
	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
遊具の種類	109	18.4%	120	20.3%	292	49.3%	63	10.6%	8	1.4%	34	-
開園時間	170	28.6%	118	19.9%	288	48.5%	12	2.0%	6	1.0%	32	-
接客のしかた	191	32.1%	152	25.5%	244	41.0%	5	0.8%	3	0.5%	31	-



⑪－３ 動植物園の展示物に関する満足度について

動植物の種類・数については、部分開園期間中で展示動物が大幅に減っている状況も1つの理由として挙げられますが、やや不満を含め不満と回答された方が、約19%となりました。その他については、不満と回答された方は、10%未満となりました。また、動物ふれあい広場は、やや満足を含めた満足と回答された方が、約50%に達しました。

	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
動植物の種類・数	62	11.3%	133	24.2%	249	45.4%	88	16.0%	17	3.1%	77	-
展示の見やすさ	68	12.5%	156	28.6%	272	49.9%	38	7.0%	11	2.0%	81	-
動物資料館	74	13.7%	153	28.3%	275	50.8%	33	6.1%	6	1.1%	85	-
動物ふれあい広場	111	20.6%	158	29.3%	237	44.0%	29	5.4%	4	0.7%	87	-
花の休憩所（大温室）	70	13.9%	130	25.8%	266	52.9%	29	5.8%	8	1.6%	123	-
動物ガイド・教室など	61	12.1%	129	25.5%	285	56.4%	24	4.8%	6	1.2%	121	-
植物ガイド・展示会など	54	10.8%	122	24.4%	297	59.3%	23	4.6%	5	1.0%	125	-



⑪－４ 動植物園の施設に関する満足度について

トイレ、売店・レストラン、雨天対策、暑さ・寒さ対策については、やや不満を含め、不満と回答された方が、15%を超える状況となりました。売店・レストランについては、地震の影響により、売店は規模を縮小、レストランは休業していることも1つの理由として考えられます。一方で、駐車場については、2012年(H24)に拡張工事を行ったことから、やや満足を含め、満足と回答された方が、40%を超える状況となりました。

	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
売店・レストラン	43	8.2%	94	17.9%	295	56.3%	78	14.9%	14	2.7%	102	-
トイレ	36	6.7%	103	19.1%	301	55.9%	86	16.0%	12	2.2%	88	-
授乳室・オムツ交換所	59	12.1%	96	19.7%	311	63.7%	19	3.9%	3	0.6%	138	-
ベンチ・休憩所	64	12.1%	144	27.1%	262	49.3%	57	10.7%	4	0.8%	95	-
駐車場	67	12.8%	146	27.9%	274	52.3%	34	6.5%	3	0.6%	102	-
雨天対策	33	6.6%	68	13.7%	320	64.4%	69	13.9%	7	1.4%	129	-
暑さ・寒さ対策	33	6.4%	76	14.7%	317	61.2%	83	16.0%	9	1.7%	108	-
障がい者・高齢者対策	42	8.5%	91	18.3%	314	63.3%	43	8.7%	6	1.2%	130	-

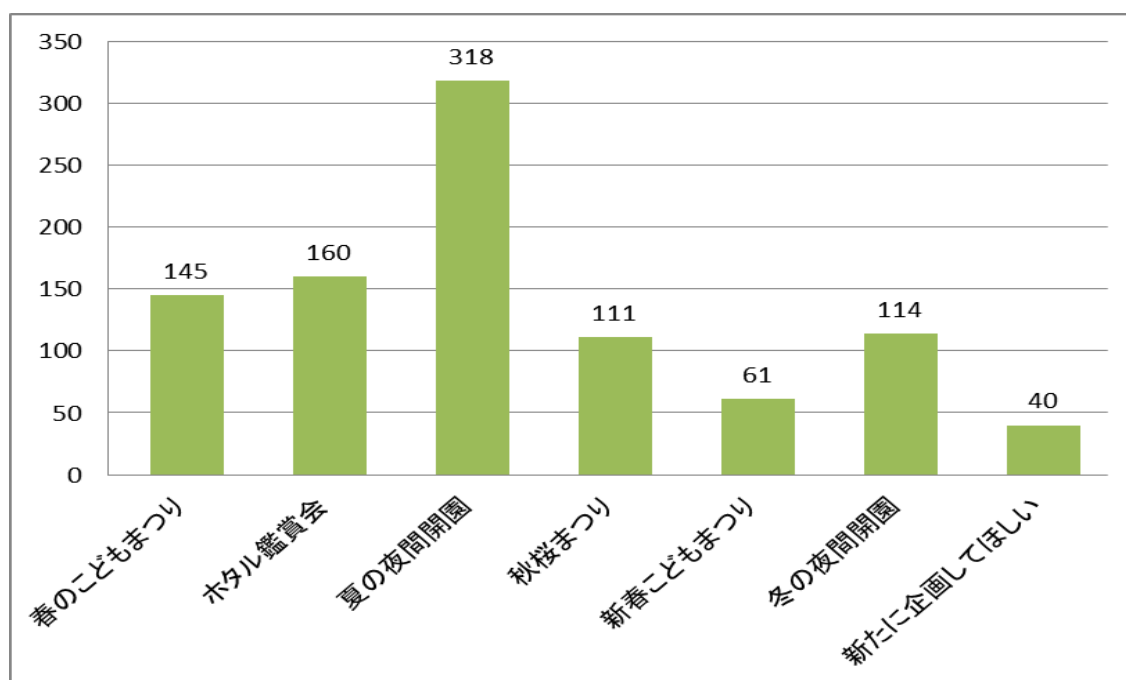


⑫動植物園のイベントについて

今後継続してほしいイベントとして一番要望が多かったものは、夏の夜間開園でした。次いで、春のこどもまつり、ホタル鑑賞会という結果になっています。一方で、新春こどもまつりが一番少ない結果となりました。

新たに企画してほしいイベントとして、「アニメとコラボしたイベント」、「ハロウィンや動物のコスプレ等来園者参加型イベント」、「スタンプラリーの開催」、「さくらまつりの開催」などをあげていただきました。

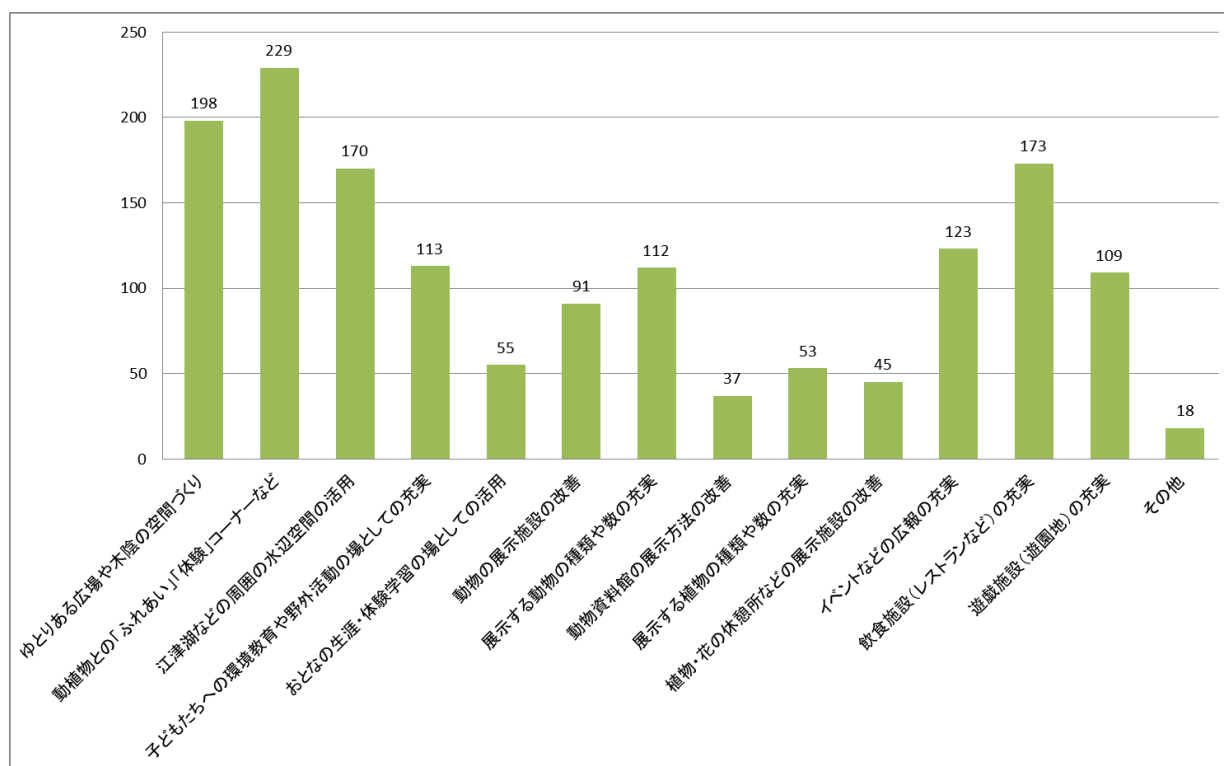
①	春のこどもまつり	145	28.7%
②	ホタル鑑賞会	160	31.7%
③	夏の夜間開園	318	63.0%
④	秋桜まつり	111	22.0%
⑤	新春こどもまつり	61	12.1%
⑥	冬の夜間開園	114	22.6%
⑦	新たに企画してほしい	40	7.9%
無回答		121	-



⑬これからの動植物園に必要と思われるものについて

最も多かった回答は、動植物との「ふれあい」「体験」コーナーとなりました。次いで、ゆとりある広場や木陰の空間づくり、飲食施設（レストランなど）が必要との結果が出ました。その他のご意見については、「洋式トイレの充実」、「おとな向けの動植物園」、「室内で遊べる場」や「アスレチック等の無料で遊べる遊具」などをあげていただきました。

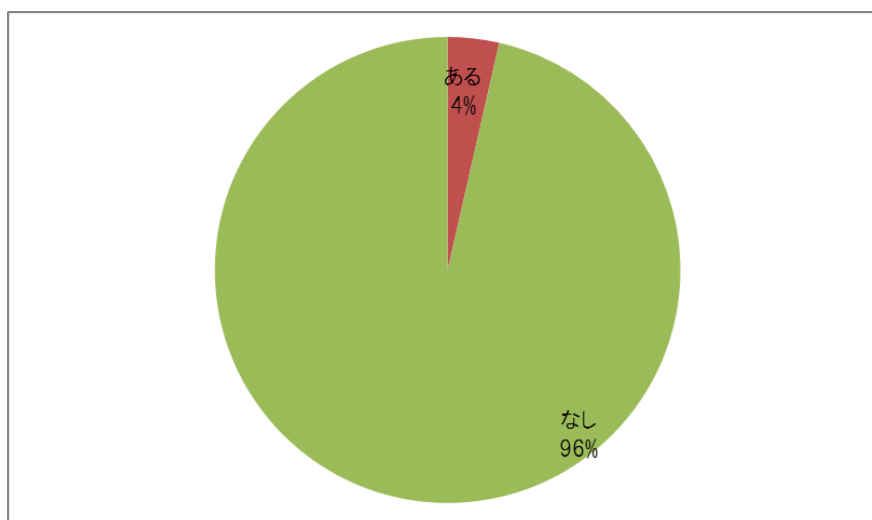
①	ゆとりある広場や木陰の空間づくり	198	37.5%	⑧	動物資料館の展示方法の改善	37	7.0%
②	動植物との「ふれあい」「体験」コーナーなど	229	43.4%	⑨	展示する植物の種類や数の充実	53	10.0%
③	江津湖などの周囲の水辺空間の活用	170	32.2%	⑩	植物・花の休憩所などの展示施設の改善	45	8.5%
④	子どもたちへの環境教育や野外活動の場としての充実	113	21.4%	⑪	イベントなどの広報の充実	123	23.3%
⑤	おとなの生涯・体験学習の場としての活用	55	10.4%	⑫	飲食施設（レストランなど）の充実	173	32.8%
⑥	動物の展示施設の改善	91	17.2%	⑬	遊戯施設（遊園地）の充実	109	20.6%
⑦	展示する動物の種類や数の充実	112	21.2%	⑭	その他	18	3.4%
無回答						98	-



⑭ これからの動植物園であまり必要と感じられないものについて

必要と感じられないものは、「ない」と回答された方が、約 96%となりました。
一方「ある」と回答された方は、約 4%となり、そのご意見では、「ゲームセンター」、「スタッフの人数」、「遊具を撤去して動物展示をにらんだ根本的に見直し」、「園内の池」がありました。

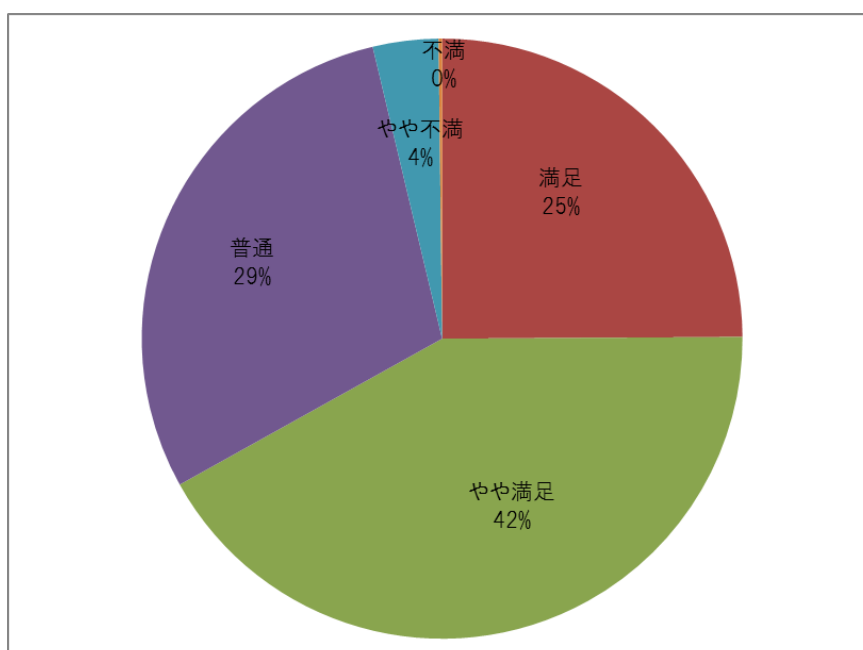
①	ある	17	3.6%
②	なし	460	96.4%
無回答		149	-



⑮ 動植物園の総合的な評価について

「満足」、「やや満足」と答えて頂いた方が、約 67%となりました。また、「不満」「やや不満」と答えていただいた方が、約 4%となりました。

①	満足	134	24.9%
②	やや満足	226	42.0%
③	普通	158	29.4%
④	やや不満	19	3.5%
⑤	不満	1	0.2%
無回答		88	-



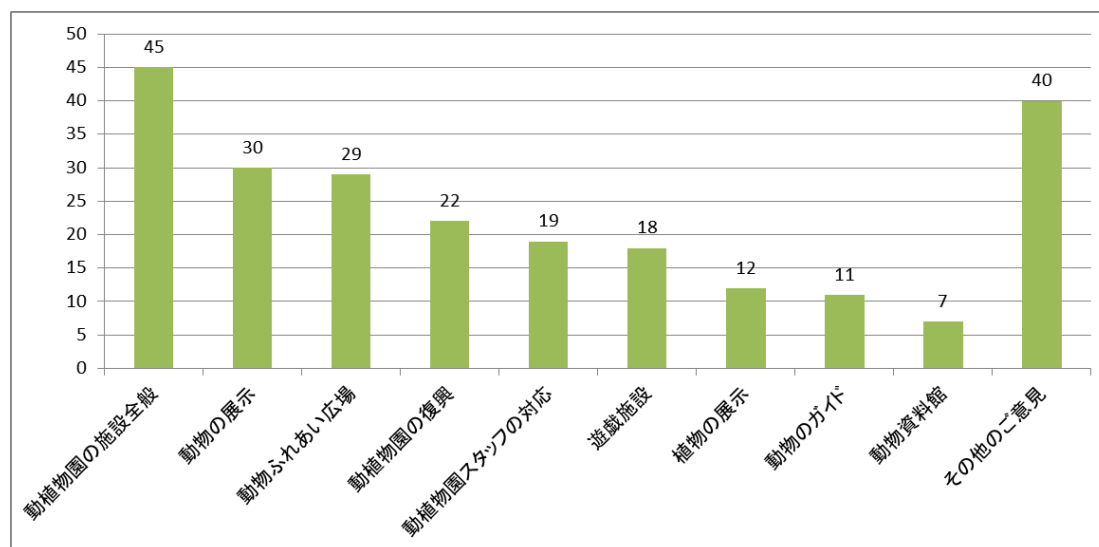
⑩動植物園の「ここは、よかった！」について

動植物園の「ここは、よかった！」という点については、記述式で来園者の方々にご意見を募り、233 件のご意見をいただきました。

最も多かったものは、「動植物園施設全般」（45 件）となり、次に「動物の展示」（30 件）、「動物ふれあい広場」（29 件）と続きます。

動植物園の施設全般	45	19.3%
動物の展示	30	12.9%
動物ふれあい広場	29	12.4%
動植物園の復興	22	9.4%
動植物園スタッフの対応	19	8.2%
遊戯施設	18	7.7%
植物の展示	12	5.2%
動物のガイド	11	4.7%
動物資料館	7	3.0%
その他のご意見	40	17.2%

これらのご意見については、今後も現状以上に維持できるように、努めなければならぬと考えています。



★ご意見の一部をご紹介します

●動植物園の施設全般について（45 件）

- ・キレイな授乳室があった。
- ・緑が多くて良いと思う。
- ・ベビーカーがよかった。
- ・九州で1番起伏が少ない。他県に自慢できる。
- ・園内が広く、乗り物、動物が充実している。
- ・道が広く、ベビーカーや車椅子が通りやすかった。
- ・駐車場の広さ など

●動物の展示について（30 件）

- ・キリン・ゾウと距離が近いこと
- ・特徴的なニワトリに加えセキショクヤケイを見ることができた。
- ・プレーリードッグの遊具は見やすいし、子供たちも喜んだ。
- ・写真と分かりやすい説明が展示されていて良かった。
- ・ゾウの健康診断はとても良かった

●動物ふれあい広場について（29 件）

- ・モルモットのタッチングは子供が喜んでいて良かった。
- ・モルモットや色んな種類のヤギに触れて楽しかったです。
- ・たくさんの動物に触れることができること

●動植物園の復興について（22 件）

- ・地震で見られる動物や遊具が減っているけど、それでも頑張って開園されていて良かったです。またきます。
- ・部分だけでも開園していただけたことは、大変喜ばしいことでした。子供連れであまりお金を掛けず、楽しめる数少ない場所なので。

●動植物園スタッフの対応について（19 件）

- ・職員さんの対応が親切で気持ち良かった。
- ・飼育員の方に質問すると丁寧に説明してくれたところ。
- ・動物もスタッフの方もみなさん頑張ってらっしゃると思いました。

●遊戯施設について（18 件）

- ・モノレールで上から動物を見られたこと。
- ・子供も飽きずに遊べる遊具があるのはうれしいと思う。1 日中でも過ごせる。

●植物の展示について（12 件）

- ・お花はきれいに植えられており、手入れが入って気持ちよかった。
- ・植物園側が穏やかにすごせるいいところでした。
- ・植物の見頃がブログで紹介されている。

●動物のガイドについて（11 件）

- ・可能な範囲での動物ガイドツアー実施がよい。
- ・キリンの自己紹介分かりやすかったです。
- ・ゾウの部屋での説明は、大人が楽しめた(昔の話ですが)。昔開園直後に来たときに、職員の方がキリンを近くに呼んでくれて嬉しかった。

●動物資料館について（7 件）

- ・今はまだ入ることができないエリアの動物達の様子を映像で見ることができ、うれしかったです。もっと多くの人に見てほしい。もったいない。
- ・特に淡水生物の展示がよかった。
- ・動物の赤ちゃんのお話がおもしろかった。

●その他のご意見（40 件）

- ・江津湖で自転車に乗れるところ。
- ・こいのぼり。季節感が感じられるところ。
- ・市内からも近く、料金も安いので遊びに来やすい。
- ・動物の数、遊具の数・質ともにバランスよく、広場もあり、色々な面で楽しめるところが良かったです。

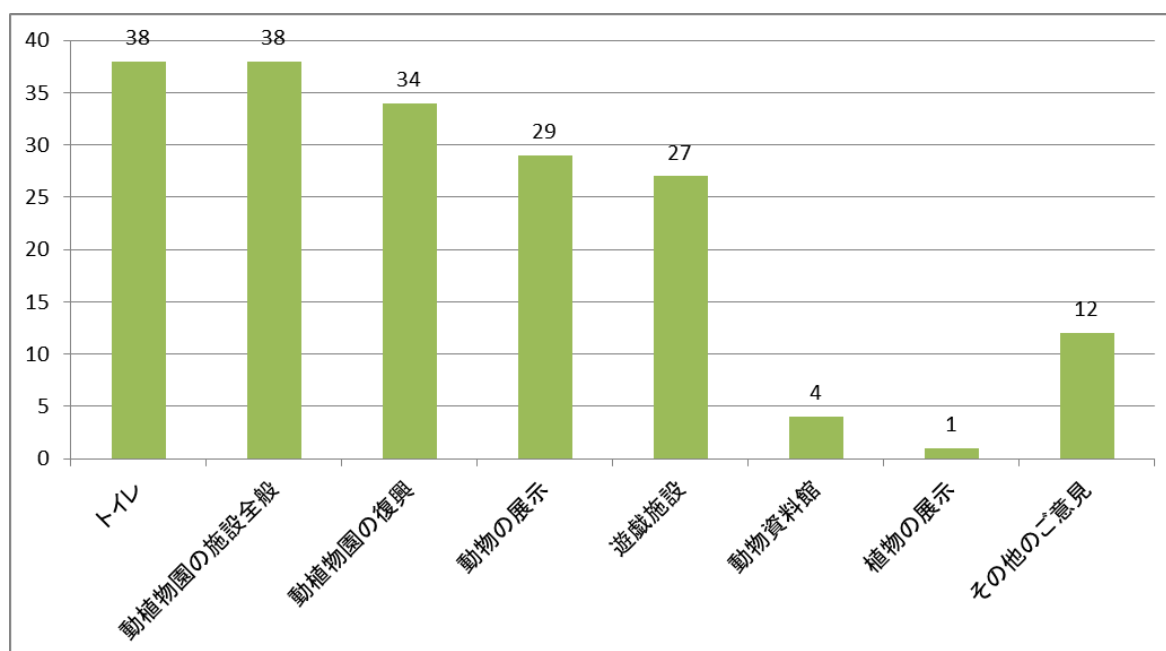
⑰動植物園の「ここは、改善してほしい！」について

動植物園の「ここは、改善してほしい！」という点についても、記述式で、来園者の方々にご意見を募り、183 件のご意見を頂きました。

トイレ	38	20.8%
動植物園の施設全般	38	20.8%
動植物園の復興	34	18.6%
動物の展示	29	15.8%
遊戯施設	27	14.8%
動物資料館	4	2.2%
植物の展示	1	0.5%
その他のご意見	12	6.6%

最も多かったものは、「トイレ」と「動植物園施設全般」(38 件) となり、次に「動植物園の復興」(34 件)、「動物の展示」(29 件) と続きます。

これらのご意見については、今後の事業の運営の参考にさせていただくとともに、本計画にできるだけ反映し、改善を図って行きたいと考えています。



★ご意見の一部をご紹介します

●トイレについて (38 件)

- ・トイレは和式が多く、子供が使用しにくい。
- ・トイレをもっと清潔に、充実してほしいです。
- ・洋式トイレが少し増えるといいなと思っています。
- ・トイレの数がもう少し増えたら助かります。

●動植物園の施設全般について (38 件)

- ・排水の溝の段差が多いので、ベビーカーの移動が少ししづらい。
- ・園路をしっかりと整備してほしい
- ・熊本の夏は暑いので、暑さ対策が必要。
- ・タバコのエリアはなくしてほしい。完全禁煙を。
- ・動物園エリアと植物園エリアが別れているところ。子ども達のその時見たいものがどち

らでも対応できるようにできないか。

- ・全体的に老朽化が進んでいる印象があります。熊本には他県に比べて本格的な水族館もないので動植物園には力を入れて欲しい！
- ・休憩する場所（イス）がもう少しあるとよいかと思います。
- ・レストランが暗く、食事をする気になれない。
- ・まわる順番の表示があると良い。
- ・雨天の時、雨をしのげる場所がもう少しあると良い
- ・屋内がもっと欲しい。
- ・手洗い場等を増やしてほしい（ふれあいの前後）
- ・ゾウの横の喫煙所。周辺を歩いていると煙が流れてくるので良い気持ちはしない。

●動植物園の復興について（34 件）

- ・花や動物の種類等増やすか、県外にあずかってもらっている動物が熊本に帰ってきてまたその動物たちが見られると良いなあ。
- ・早く全部の動物を見られるようにしてほしい。
- ・完全復活待っています。
- ・地震で大変だったと思います。ご苦労様でしたが、まだまだ色々改善していった欲しいです。
- ・早く全面開園してほしい

●動物の展示について（29 件）

- ・ガイドの数や種類をふやしてほしい。
- ・動物の行動展示が少ない。
- ・獣舎が見にくい（クマ舎、猛獣舎、草食獣舎、キリン舎）
- ・バックヤードやエサやり、エサ作りなど体験型の教室・イベントの充実。
- ・動物をただ展示するだけでなく、触れる動物を増やす、近くまで寄れる展示方法、生態の動きを活用した展示など、動物に配慮しつつ楽しませるような見せ方を期待してます。

●遊戯施設について（27 件）

- ・遊具はもう少し安い料金がよい。
- ・遊具がもう少したくさんあるといい。
- ・小さい子供が遊べる遊具を増やしてほしい。
- ・モノレールで動物を上から見る事が出来ましたが、キリンとゾウとカピバラ・クジャク以外は名前がわからなかったので、モノレールからでもわかれば良いと思います。
- ・ゲームセンターの充実
- ・もっとスリルのある遊具がほしい（大人用）
- ・遊具などのさび・はげ
- ・のりもの券が少々めんどろ、パス券になるといいなあ

●動物資料館について（4 件）

- ・動物資料館の入口にスロープがあると良い。せっかくベビーカー貸出しているのだから。

- ・特定外来生物被害防止法の資料を動物資料館に展示して欲しい。
- ・カメのエリアの水場をもう少し大きくして欲しい

●植物の展示について（1件）

- ・温室をもっと行きたくなるような空間にしてほしい。

●その他のご意見（12件）

- ・夜間開園の日を増やしてほしい。
- ・公共交通で行きにくい。
- ・パンフレットがほしい。
- ・少しでも入園料を払い、修復費に充ててもいいのではないかと思います
- ・動物（ヤギ・羊）のフンが道にまで落ちていたので、清掃に力を入れて欲しい。

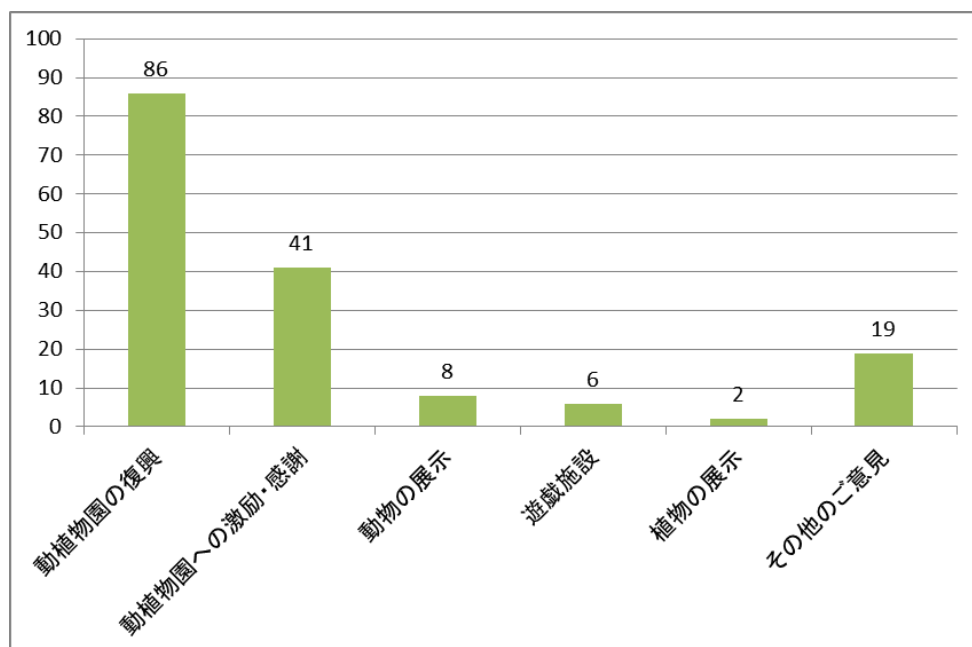
⑱その他ご意見・ご要望について

その他ご意見・ご要望については、
162件のご意見を頂きました。

中でも、動植物園の復興への期待と
動植物園への激励・感謝に関するもの
が約7割弱ありました。

動植物園の復興	86	47.0%
動植物園への激励・感謝	41	22.4%
動物の展示	8	4.4%
遊戯施設	6	3.3%
植物の展示	2	1.1%
その他のご意見	19	10.4%

今後も動植物園の復興を最優先に取り組み、来園者からの激励や感謝に応えて
いくことが、大事だと考えています。



★ご意見の一部を紹介させていただきます

●動植物園の復興について（86件）

- ・熊本地震の被災で大変だったと思いますが、1年でここまで展示や遊具が使えるようになったのは、すごいと思いました。全面開園を楽しみにしています。

- ・早くマルルやももこちゃん達が見たいです。
- ・熊本地震からの復旧・復興大変ですけど市民のために頑張ってください。
- ・安全対策を施して、リニューアルをしてほしい。
- ・もう少しピッチを上げて修理を完了してほしいです。
- ・今日は地震の影響を知らずに来てしまい動物をあまり見られず残念でした。でもアフリカゾウが見れてよかったです。
- ・20年ぶりに来園しました。昨年の地震以来待ち望んでいたのが嬉しかったです。
- ・熊本動植物園、大好きです。ホッと安心する場です。これからも応援しています。
- 動植物園への激励・感謝について（41件）
 - ・ゾウ・キリンが頑張って接客していました。お疲れ様です。職員の皆さん有難うございます。
 - ・成長した子供たちと来ました。ありがとうございます。
 - ・熊本動植物園とても大好きです。
 - ・動物園に来るとホッとします。動物たちの映像も面白かったです。がんばって下さい。
 - ・成長した子供たちと来ました。ありがとうございます。
 - ・子供たちのため開園していただき、ありがとうございました。
- 動物の展示について（8件）
 - ・身近な動物（動物園外）のガイドツアーがあったらいいかも。
 - ・獣舎が古くて暗い。
 - ・動物を近くで見られたらもっと楽しくなると思います。
 - ・エリア拡大（スペースなければ植物園を縮小）し展示種類を増やしてほしい。江津湖に隣接しており、他動物園と比較して特徴的なアピールポイントなのでこれを活かして
 - ・他にない動物園にしてほしい。地元ですので期待しています。
 - ・ウサギのふれあいがしてみたいです。
 - ・夜もやってほしい。夜行性の動物が元気な姿を見たい。
- 遊戯施設について（6件）
 - ・遊具の料金ですが、200円は少し高い気がします。200円でも、もう少し長く乗れるといいです。又は回数券などがあるといいかなと思います。
 - ・乗り物に乗っている時間を長くしてほしい。
 - ・遊園地の絶叫系を1つ
 - ・暑かったので、霧のミストが遊具を待っている所にあると嬉しかったです。
- 植物の展示について（2件）
 - ・植物（特に多肉植物）が好きなので、優秀な作品の展示会及び、同時に販売会をして欲しい。福岡市植物園でも行われています。
 - ・お花がきれい
- その他のご意見（19件）
 - ・サポーターが5,000円は高い。

- ・ たこ焼きがおいしくなかった。各所にある水飲み場の復旧を望む。
- ・ 今日は 30 年ぶりくらいで足を運んでみようと思い来園しました。今後は少なくとも 1 ～2 ヶ月に 1 回は遊びにこようと考えています。
- ・ 多くの方がレジャーで来園すると思うが、プラスαで学び・感動があるような「しかけ」を作っていく必要があると思います。
- ・ 小さい子供、休日の時は多いですけど、高齢者も多くなっています。平日でも楽しく一日過ごせるようなものを考えて下さい。
- ・ 高齢者のためのベンチを増設してほしい（園内が広いので）。
- ・ 携帯の充電スペースがほしいです。
- ・ ステージ広場を有料で発表会などに使用できるようにしたらどうでしょう。